
定山溪観光魅力アップ構想（案）

みなさまからのご意見を募集します

—パブリックコメントの実施—

<意見募集期間> ※期間内必着

平成 27 年（2015 年）1 月 13 日（火）～2 月 12 日（木）

定山溪は、毎年 100 万人以上が宿泊する道内でも有数の規模を誇る温泉地ですが、様々な課題も抱えています。今後、定山溪が観光地・温泉地として目指すべき将来像及び方向性を描き、官民一体となって魅力向上を図るための指針とするため、「定山溪観光魅力アップ構想（案）」を取りまとめましたので、広く市民のみなさまにお知らせさせていただくとともに、ご意見を募集いたします。

お寄せいただいたご意見を考慮してさらに検討を行い、構想を策定する予定です。また、お寄せいただいたご意見などの概要は、それらに対する市の考え方と併せて、ホームページ等で公表する予定です。

<お問合せ先> 札幌市観光文化局観光コンベンション部観光企画課

〒060-8611 札幌市中央区北 1 条西 2 丁目

電話：011-211-2376 ファクス：011-218-5129

Eメール：kanko@city.sapporo.jp

ホームページ：http://www.city.sapporo.jp/keizai/kanko/jozankei/index.html

<< 意見募集要領 >>

1 ご意見募集期間

平成27年1月13日（火）から2月12日（木）まで（必着）

2 ご意見提出方法

提出方法	提出先	備考
郵送	〒060-8611 札幌市中央区北1条西2丁目 札幌市観光文化局観光コンベンション部観光企画課あて	別紙「ご意見記入用紙」をご利用ください。
ご持参	・札幌市観光文化局観光コンベンション部観光企画課 ・定山溪まちづくりセンター（札幌市南区定山溪温泉東4丁目315-4） （受付時間：平日8時45分～17時15分）	
ファクス	札幌市観光文化局観光コンベンション部観光企画課あて ファクス番号：011-218-5129	
電子メール	件名を「定山溪観光魅力アップ構想（案）について」として、住所、氏名（フリガナ）を記載の上、下記アドレスに送信してください。 メールアドレス：kanko@city.sapporo.jp	メール本文に直接ご意見を記入してください。
ホームページ	札幌市公式ホームページ内のご意見入力フォーム http://www.city.sapporo.jp/keizai/kanko/jozankei/form.html	「ご意見入力フォーム」に必要事項を入力し送信してください。

（参考 本資料配布場所）

- ・札幌市役所（2階：市政刊行物コーナー）（中央区北1条西2丁目）
- ・札幌市役所（2階：観光企画課）（同上）
- ・各区役所総務企画課広聴係
- ・各区まちづくりセンター
- ・ホームページ「定山溪観光魅力アップ構想」（札幌市公式ホームページ内）
<http://www.city.sapporo.jp/keizai/kanko/jozankei/index.html>

3 留意事項

- ・ご意見の提出にあたっては、お名前・ご住所のご記入をお願いいたします。ご意見の概要等を公表する際には、お名前・ご住所は公開いたしません。個人情報、札幌市個人情報保護条例の規定に従って、適正に取り扱います。
- ・電話によるご意見の受付や、ご意見に対しての個別回答はいたしかねますので、ご了承下さい。

切り取ってご利用ください

定山溪観光魅力アップ構想（案）
に対するご意見記入用紙

（お名前） _____

（ご住所）〒 _____

ページ・項目	ご意見
	----- ----- ----- ----- ----- ----- ----- ----- ----- ----- ----- ----- ----- ----- ----- ----- ----- ----- ----- -----
<p>ご協力ありがとうございました。</p>	

【提出先・お問合せ先】
 札幌市観光文化局観光コンベンション部観光企画課（札幌市役所本庁舎 2階 北西側）
 〒060-8611 札幌市中央区北1条西2丁目
 電話：011-211-2376 / ファクス：011-218-5129
 電子メール：kanko@city.sapporo.jp
 ホームページ：<http://www.city.sapporo.jp/keizai/kanko/jozankei/form.html>

※用紙が足りない場合は、任意の別紙に記入しご提出願います（お名前・ご住所は必ず記載）。
 ※お名前、ご住所等は、集計以外の目的に用いることはありません。札幌市個人情報保護条例の規定に従って、適正に取り扱います。

定山溪観光魅力アップ構想(案)【概要版】

第1章 構想策定にあたって

策定の背景・目的

- 旅行形態の変化・多様化などによる定山溪利用客の低迷
- 交通環境の変化(国道230号線の拡幅、LCCや北海道新幹線開業の動き)
- 温泉施設の老朽化
- 地域における定山溪全体での魅力アップに向けた機運の高まり

「定山溪観光魅力アップ構想」の策定

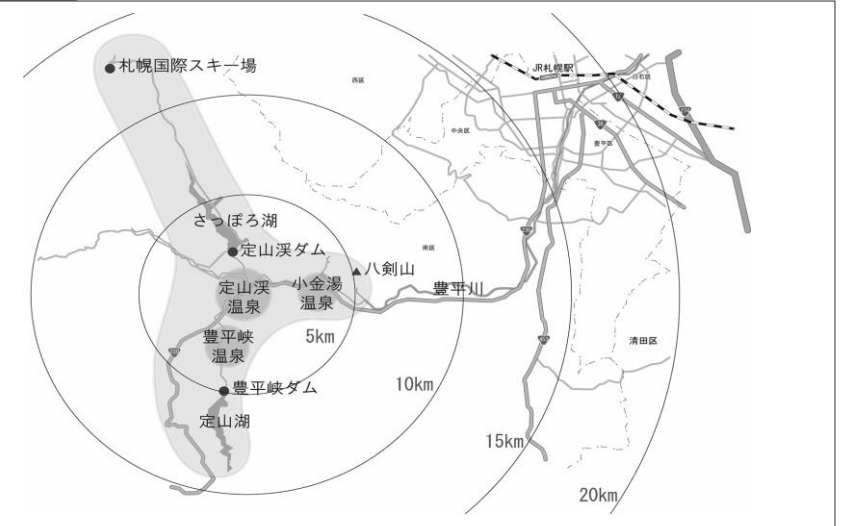
- ・「札幌市まちづくり戦略ビジョン」で掲げる個別計画「札幌市観光まちづくりプラン」に基づく構想
- ・取組期間:平成27年度(2015年度)～平成36年度(2024年度)の10年間

札幌の集客交流を担う温泉地として、札幌市民に愛される札幌の温泉地として、
 ・温泉観光地としての魅力の底上げ
 ・新たな価値の創出・発信

さらなる誘客のために、札幌市と地域が共に魅力的な観光地づくりを進める。

対象エリア

○温泉街を中心とした定山溪温泉の地域にとどまらず、隣接する小金湯温泉や八剣山、豊平峡、札幌国際スキー場までを含んだ広域的な観光エリアを“定山溪”として表現する。



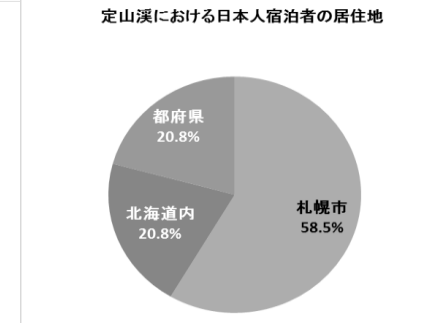
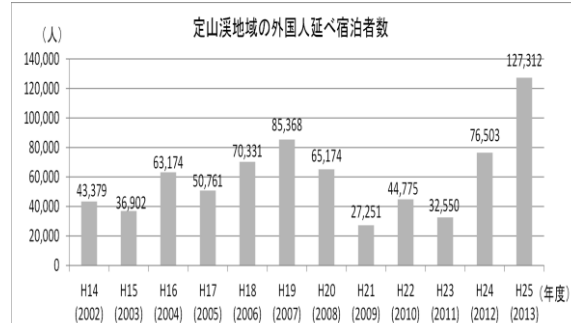
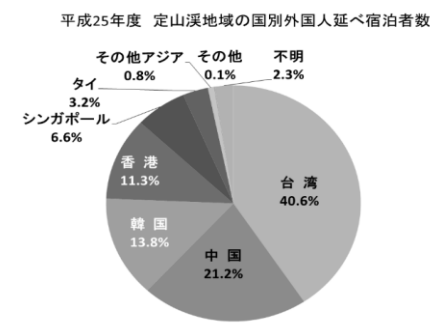
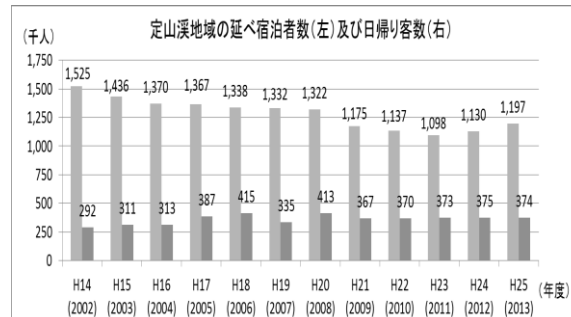
第2章 定山溪観光を取り巻く社会環境 / 第3章 定山溪観光の現状と課題

定山溪の概要

- 位置
札幌中心部から南に約30km、支笏洞爺国立公園の区域内に位置する。
- 交通
大正7年(1918年)から昭和44年(1969年)まで白石～定山溪間を定山溪鉄道が運行。
現在は、札幌駅前及び真駒内駅から路線バス、市街地からの直行バス「かつぱライナー」が運行。
- 歴史
慶応2年(1866年)に修験僧・美泉定山(みいずみじょうざん)がアイヌの人々の案内で源泉と出会ったのが始まり。
平成8年(1996年)に「健康保養地宣言」を行い、平成28年に開湯150周年を迎える。
- 人口推移
定山溪出張所管内(定山溪地区及び小金湯地区)の人口は減少傾向にあり、現在は1,924人(平成22年国勢調査)。

観光に関わる動向

- 観光客数・宿泊者数
札幌市の観光入込客数は、近年やや増加傾向で13,559千人。道内観光客が約7割。
定山溪の延べ宿泊者数は、年々減少傾向だが、平成23年度を底にほぼ横ばい傾向で、1,197千人。
- 外国人宿泊者数
札幌市全体で1,054千人、定山溪で127千人と、ともに年々増加傾向。
台湾、中国、韓国、香港が約8～9割、近年東南アジアが増加傾向。



※平成25年度現在。

定山溪の現状と特性

- 支笏洞爺国立公園に立地する豊かな自然
- 札幌市街地から1時間圏内の都市型温泉観光地
- 高温で湯量も豊富な自然湧出源泉
- 泉質の異なる3つの温泉地の立地
- 2つの大規模なダムやダム湖を有する環境
- 老若男女が楽しめるさまざまなアクティビティ
- 新規出店による新しい需要の可能性

観光魅力アップに向けた課題

- ①宿泊者数の減少、客層の変化への対応
- ②拠点性と周遊性の向上
- ③温泉施設の老朽化などへの対応や環境整備
- ④温泉地らしいイメージの創出
- ⑤空き店舗や空き施設、空き地への対応
- ⑥国道拡幅に合わせたまちづくり
- ⑦定山溪エリアの魅力や観光メニュー増大と連携強化
- ⑧交通アクセスの充実や魅力強化
- ⑨定山溪の認知度の向上
- ⑩定山溪の観光魅力アップを担う人材や組織の育成

【温泉地・宿泊地選択の際に重視する点と定山溪の評価】



第4章 定山溪観光魅力アップで目指す姿

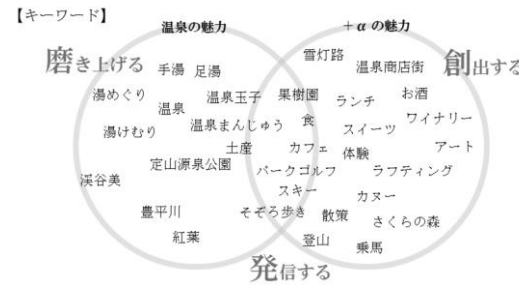
目指す将来像

湯めぐり、森めぐり、水めぐり、
四季あそびー札幌定山溪

市民や観光客が嗜好に合わせてさまざまに楽しめるような、温泉を中心とした新しい価値と魅力をもつ札幌の温泉観光地を目指します。

将来像の実現に向けた基本的な考え方

新・奥座敷へ
心安らぐ“温泉” × 心躍る“+α”のリゾート空間

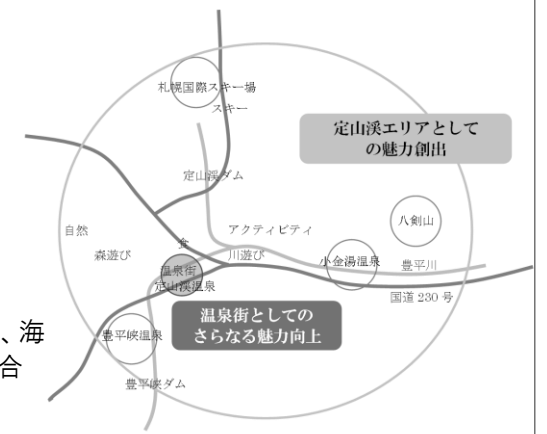


基本的方向性

温泉街としての
さらなる魅力向上

定山溪エリアとしての
魅力創出

上記、2つを軸に、札幌市民、道内、道外、海外からの観光客それぞれの多様なニーズに合わせて、取組を推進



第5章 基本方針と展開

基本方針1 温泉街らしさにぎわいづくり

① 温泉施設や観光スポットなどの環境整備

国道230号線及び定山溪中央線を中心とした整備

- 温泉を楽しめる施設などの改修や温泉情緒を感じさせる演出
 - ・安全・安心で美しい環境を保つための温泉施設の整備・改修
 - ・温泉情緒を感じさせるような湯けむりなどの演出

○定山溪の顔となる新たな拠点の創出

- ・スポーツ公園にある駐車場を活用した集客交流拠点施設の整備
(インフォメーション機能、郷土資料展示、トイレ、駐車場などを想定)

○集客交流拠点施設を核とする各種施設整備に向けた基本計画策定 (二見公園及びトイレの再整備、散策路の環状化などの検討)

② 美しい都市型温泉観光地としての景観形成

- 良好な街並みやにぎわいを感じる活動などにより景観的な魅力を高めるガイドラインの策定

③ 温泉街におけるにぎわいの創出

- 温泉街を歩いてもらうための仕掛け
 - ・空き店舗・空き地などの活用や店舗の誘致促進
 - ・ライトアップや食の集客などによる夜の魅力向上

基本方針2 広域的なネットワーク化による新たな魅力創出

① 新しい魅力エリアの形成

- ・パン屋やカフェなどの食の魅力スポットの観光資源としての活用
- ・三笠緑地周辺での雪を活用した滞在メニューづくりなどの魅力創出

② 温泉街をハブ(拠点)とした周辺観光資源との回遊性向上

- ・周辺観光資源を巡る周遊バスやレンタサイクルの検討
- ・「札幌シーニックバイウェイ藻岩山麓・定山溪ルート」の取組と連携した南区全体の観光魅力アップ

③ 定山溪エリアまでの交通アクセスの魅力向上

- ・ガイドや歴史・食などの仕掛けによる定山溪までの移動の魅力向上
- ・真駒内駅前地区のまちづくりに合わせた交通アクセスの魅力向上の検討

④ 年間を通じた集客イベント事業の推進

- ・既存の春夏秋冬の各イベントの充実
(春: 溪流鯉のぼり、夏: JAZZ TOWN、秋: 紅葉かつぱバス、冬: 雪灯路)
- ・開湯150周年イベント(H28)やプレイベントの実施及び記念誌制作
- ・市内大型イベントとのコラボレーション

基本方針3 魅力を伝える情報発信・インフォメーションの強化

① 知名度アップ及びイメージ構築

- ・首都圏や関西圏を主なターゲットとした商談会や物産展でのPR
- ・東南アジアなど海外の有望市場への「和」のイメージを使ったプロモーション

② 観光行動を促す動機づけ

- ・世代や目的などのターゲットに応じた媒体などを活用した情報発信

③ 到着後のサポート

- ・ワンストップ窓口としての観光案内所の整備と機能強化
- ・まち歩きや体験活動の発着地としての拠点化

基本方針4 魅力アップの担い手育成とマネジメント

① おもてなしを支える人材育成

- ・地域住民やホテル従業員による観光ボランティアの育成

② 定山溪ファンやサポーターづくり

- ・市内の児童生徒、教員を対象にした体験学習の推進

③ エリアマネジメントの推進

- ・一般社団法人定山溪観光協会の体制及び機能の強化
- ・エリアマネジメント組織の在り方検討

第6章 観光魅力アップの推進に向けて

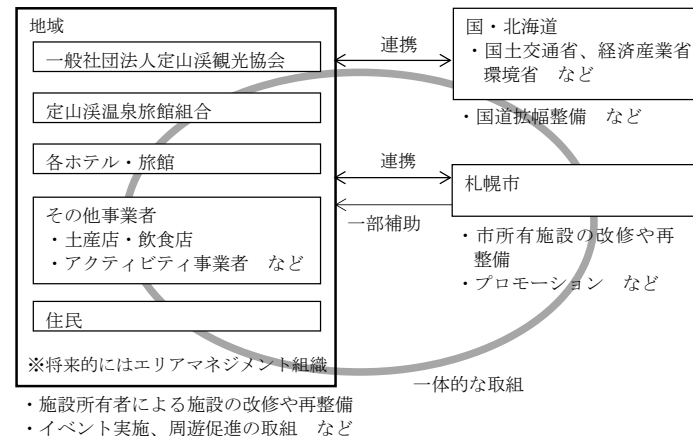
推進体制・進行管理

- 札幌市と地域が役割分担をしながら、連携して進める。地域においては、定山溪観光協会、ホテル・旅館、その他事業者、住民が一体となって取組を推進するとともに、定山溪エリアをマネジメントする体制づくりを行う。

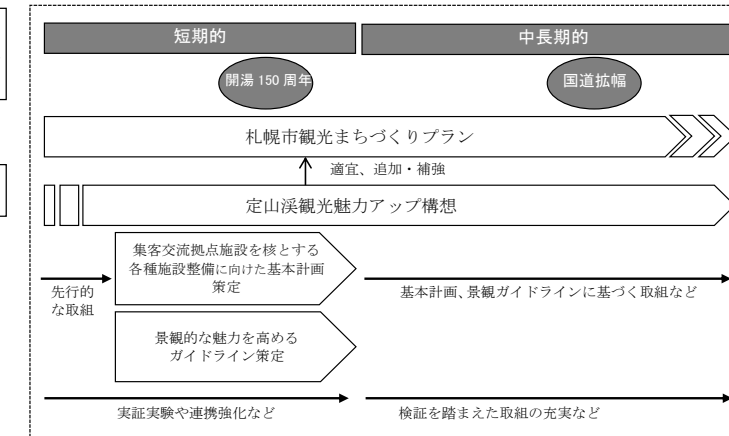
- 新たな取組は実証実験を積極的に行い検証しつつ、本格実施につなげる。基本方針1は先行的取組を行いつつ、集客交流拠点を核とする各種施設整備に向けた基本計画などを策定し、具体的な取組に反映する。

- 「札幌市観光まちづくりプラン」での毎年度の点検・評価に新たな取組などを追加・補強しながら、進行管理を行うとともに、必要に応じて基本方針などの見直しを図る。

【推進体制イメージ】



【進行管理イメージ】



成果指標

- 定山溪地域の延べ宿泊者数
1,197千人(H25) → 1,450千人(H36)
- 温泉街の街並みに魅力があると感じる人の割合
42.2%(H24) → 60%(H36)
- 周辺観光スポットが充実していると感じる人の割合
39.3%(H24) → 60%(H36)

基本方針の展開図（案）



二見吊橋・かっぱ淵



三笠緑地



二見公園



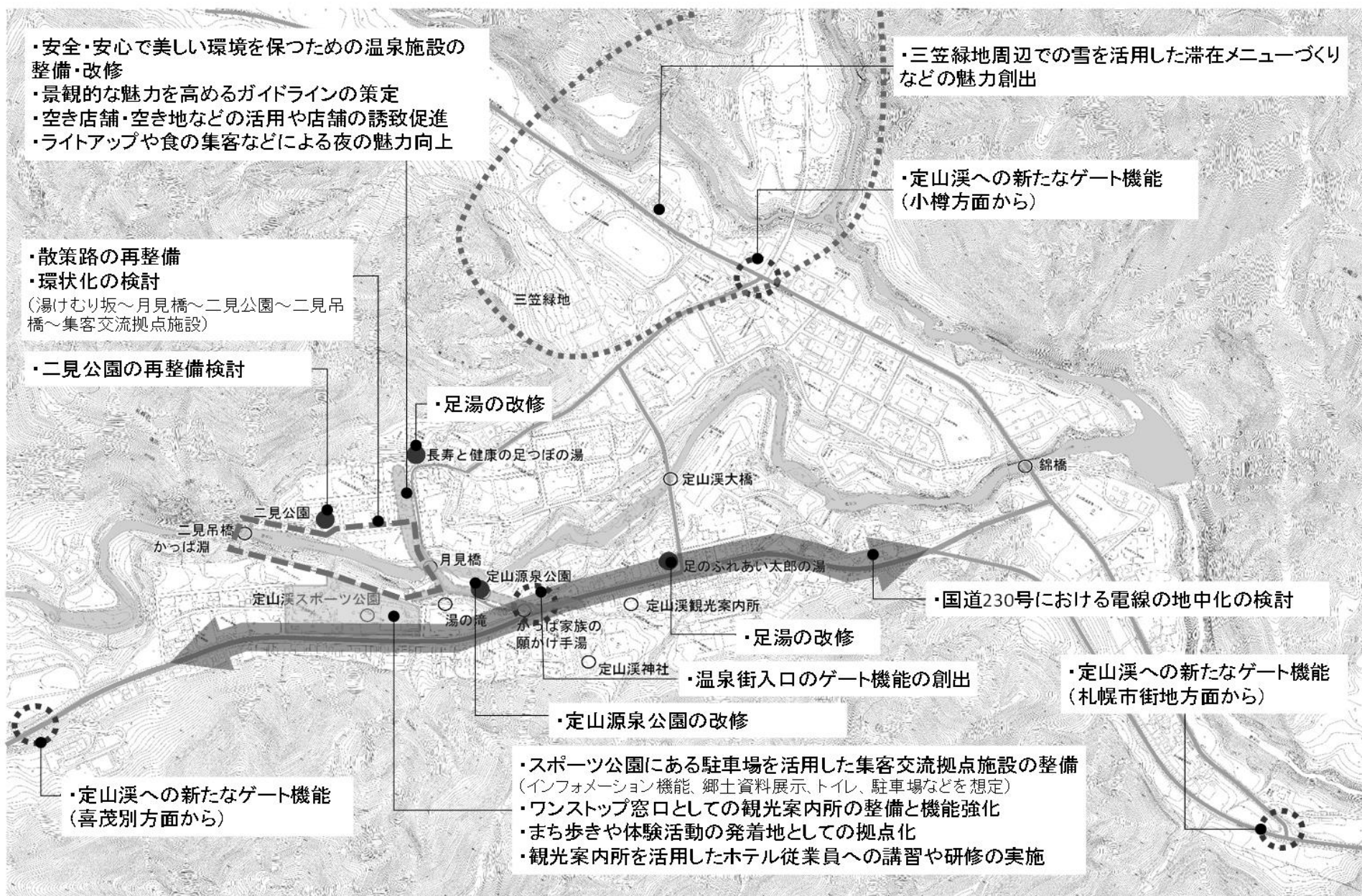
長寿と健康の足つぼの湯



かっぱ家族の願かけ手湯



定山源泉公園



札幌国際スキー場



八剣山ワイナリー



乗馬



アイヌ文化交流センター



カヌー



ラフティング

※ 写真は定山溪の観光資源

定山溪観光魅力アップ構想（案）

目次

第1章 構想策定にあたって

1	策定の背景.....	1
2	構想の目的.....	2
3	対象エリア.....	2
4	構想の位置付け.....	3
5	計画期間.....	3

第2章 定山溪観光を取り巻く社会環境

1	人口推移.....	4
2	観光に関わる動向.....	6
3	国内温泉地の状況.....	12

第3章 定山溪観光の現状と課題

1	位置・交通・歴史.....	13
2	利用状況.....	15
3	観光資源.....	16
4	定山溪の特性と現状分析.....	20
5	定山溪の観光魅力アップに向けた課題.....	25

第4章 定山溪観光魅力アップで目指す姿

1	目指す将来像.....	28
2	将来像の実現に向けた基本的な考え方.....	29

第5章 基本方針と展開

- 1 温泉街らしさやにぎわいづくり 32
- 2 広域的なネットワーク化による新たな魅力創出 34
- 3 魅力を伝える情報発信・インフォメーションの強化 36
- 4 魅力アップの担い手育成とマネジメント 38

第6章 観光魅力アップの推進に向けて

- 1 推進体制 42
- 2 段階的な魅力アップの推進 42
- 3 進行管理 43

資料編

- 定山溪観光魅力アップ構想の実施主体及び展開スケジュール 46
- 策定経過 48

第 1 章 構想策定にあたって

1 策定の背景

定山溪は、札幌市南区に位置し、札幌都心部から南に約 30km、支笏洞爺国立公園の区域内に位置する緑豊かな溪谷を有する北海道を代表する温泉地であり、札幌の奥座敷と呼ばれています。

毎年 100 万人以上の宿泊客と 30 万人以上の日帰り客が利用し、入湯税収入は約 2 億円となっていますが、団体旅行から小グループや家族などの個人旅行へのシフトに伴い、宿泊者数は減少傾向にあります。海外観光客については、近年、東アジアを中心に増加しています。

全国的な傾向と同様、利用者の旅行目的や嗜好も多様化しており、温泉街の散策や周辺の自然を生かした体験活動の魅力などの必要性が増しています。また、格安航空会社（LCC）の就航や北海道新幹線の開業予定、国道 230 号の拡幅計画など、北海道や札幌・定山溪に訪れやすい交通環境が整いつつあります。地域では、イベントの開催をはじめとした定山溪全体での取組が行われるなど、魅力アップに向けた機運が高まりつつあります。

一方で、各種施設などの老朽化が進み、温泉地としての魅力ある景観や温泉街らしさが失われつつあります。また、温泉のほかにも自然を生かした体験や散策、食など様々な魅力があるものの、十分に活用されていない状況もあり、さらなる活用や連携が求められているとともに、それらの観光資源や魅力を含めた定山溪の認知度向上も大きな課題となっています。

そのため、このような旅行形態の変化や観光ニーズの多様化などに対応しながら、定山溪地区が抱えている課題を解決し、札幌市と地域が連携して定山溪全体の魅力を高めることが求められています。

【定山溪温泉全景】



2 構想の目的

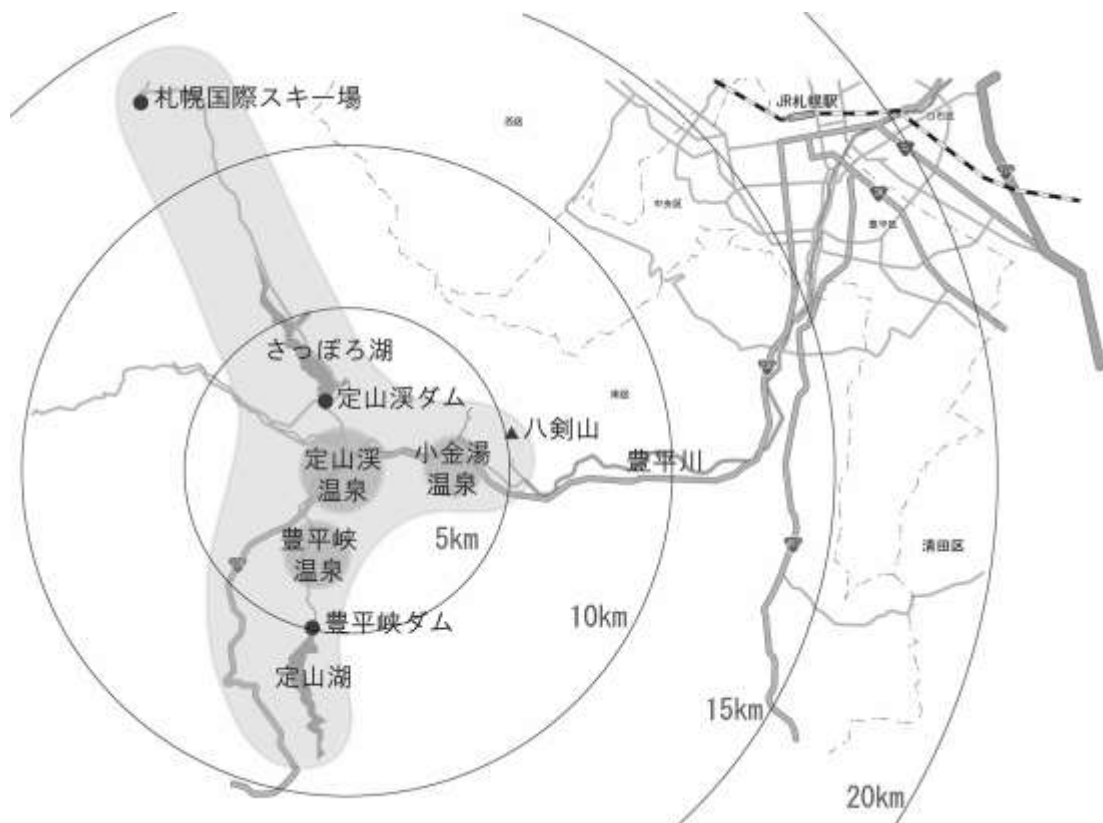
道内でも有数の規模を誇る温泉地であり、札幌市民にも親しまれている定山溪は、近年、宿泊者数が減少傾向にあります。都市部や新千歳空港から近く、魅力的な宿泊施設や温泉をはじめとして、自然や体験スポットなどの多くの観光資源があり、今後の取組により、さらなる誘客が十分可能と考えられます。

そのため、札幌の集客交流を担う重要な温泉地として、また、札幌市民に愛される札幌の温泉地として、ソフト・ハードの両面から温泉観光地として魅力の底上げを図るとともに、新たな価値を創出・発信する必要があります。

こうしたことから、今後の定山溪の方向性を明らかにし、札幌市と一般社団法人定山溪観光協会、ホテル・旅館、その他の事業者、住民が一体となって魅力的な観光地づくりを進めるための指針として、「定山溪観光魅力アップ構想」を策定します。

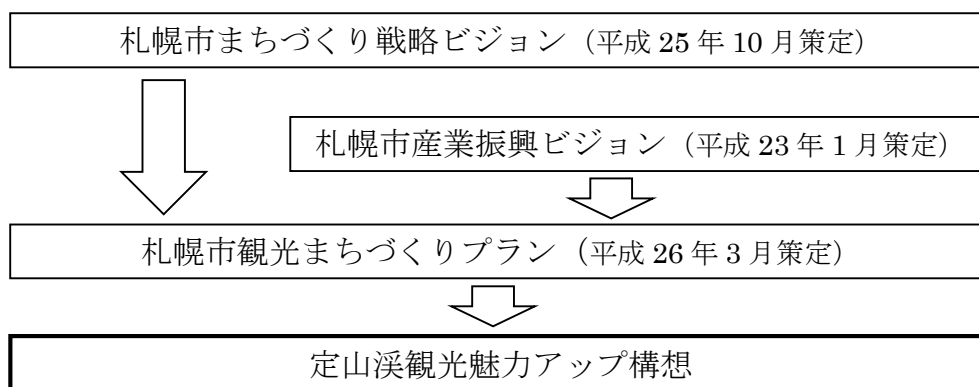
3 対象エリア

本構想では、多様化する観光ニーズへの対応や面的な広がりをもった観光地としての定山溪の魅力を生み出し、発信することが求められることを踏まえ、温泉街を中心とした定山溪温泉の地域にとどまらず、隣接する小金湯温泉や八剣山、豊平峡、札幌国際スキー場までを含んだ広域的な観光エリアを“定山溪”として表現します。



4 構想の位置付け

本構想は、札幌市のまちづくりの基本的な指針である「札幌市まちづくり戦略ビジョン（計画期間：平成 25 年度～平成 34 年度）」で掲げる個別計画「札幌市観光まちづくりプラン（計画期間：平成 25 年度～平成 34 年度）」に基づき、官民一体で目指すべき将来像及び方向性を描いたものです。



【参考】「札幌市まちづくり戦略ビジョン<戦略編>」※抜粋

第 2 章 第 3 節 3 (2) 高次機能交流拠点 定山溪

豊かな自然環境を生かし、自然と共生した様々な体験が可能となる宿泊・滞在型の観光拠点として、その魅力を高めるとともに、更なる活用を図ります。

【参考】「札幌市観光まちづくりプラン」※抜粋

マ ス タ ー プ ラ ン 編	<p>【基本方針 1】札幌らしい都市文化やライフスタイルの魅力を生かした観光の創造</p> <p><u>1-6 札幌の奥座敷「定山溪」の魅力アップ</u></p> <ul style="list-style-type: none"> 定山溪地区の活性化や総合的な再整備に向けた構想の策定を進めます 支笏洞爺国立公園の豊かな自然環境を生かした体験観光コンテンツやレクリエーション、イベントなど、エリア全体の魅力を生かして、定山溪温泉への誘客と滞在の促進、満足度の向上に取り組みます 国道 230 号や道道小樽定山溪線のつながりを生かした、周辺エリアとの連携による周遊観光を促進し、定山溪温泉への誘客を図ります
ア ク シ ョ ン プ ラ ン 編	<p>【重点施策 2】集客交流拠点の魅力アップ</p> <p><u>2-1 定山溪地区の魅力アップ</u></p> <ul style="list-style-type: none"> 定山溪地区の観光資源としての魅力を高めるため、付加価値の向上や環境整備に向けた「(仮称) 定山溪魅力アップ構想」の策定 温泉街のライトアップや周遊バスの運行など温泉街の回遊を促進するイベントへの支援 雪を活用したアクティビティなど、ファミリー層・海外客をターゲットとした冬の滞在メニューづくり 食の魅力や自然体験メニューなど周辺の観光資源との連携による周遊の促進 定山溪の知名度向上を目的とした首都圏におけるプロモーション活動の展開

5 取組期間

本構想の取組期間は、平成 27 年度から平成 36 年度までの 10 年間です。

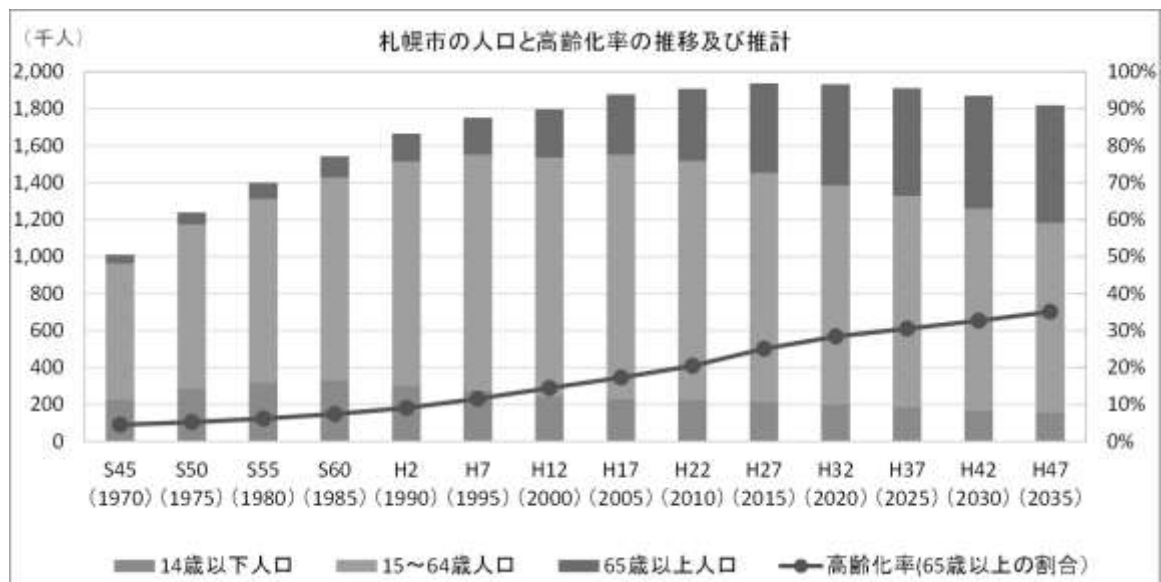
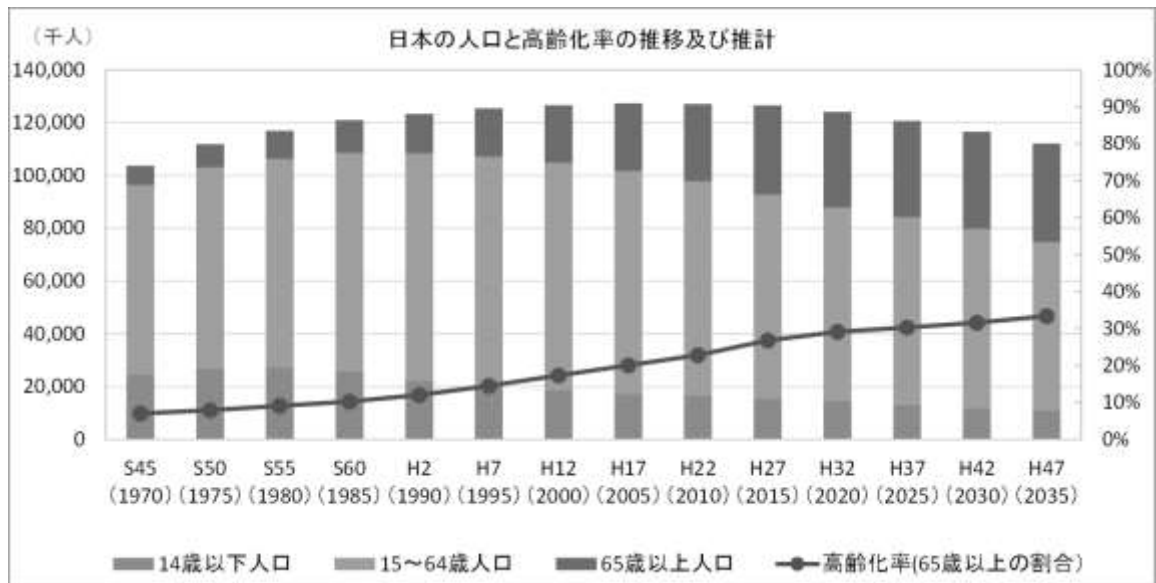
第2章 定山溪観光を取り巻く社会環境

1 人口推移

(1) 札幌市の人口推移・推計

全国的な社会構造の変化と同様に、札幌市においても少子高齢化が進んでいるとともに、平成27年前後をピークに減少傾向に転じることが予測されています。

【日本・札幌市の人口と高齢化率の推移及び推計】



出典：国勢調査、国立社会保障・人口問題研究所、札幌市

(2) 定山溪の人口推移

定山溪出張所管内（定山溪地区及び小金湯地区）の人口は、昭和 40 年頃をピークに減少しており、平成 22 年の国勢調査では 1,924 人となっています。



出典：国勢調査

2 観光に関わる動向

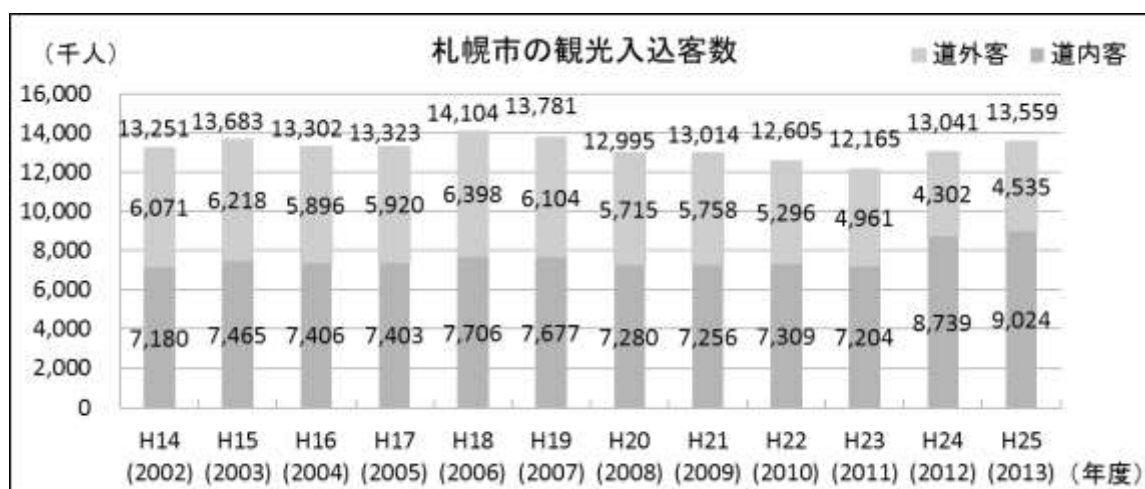
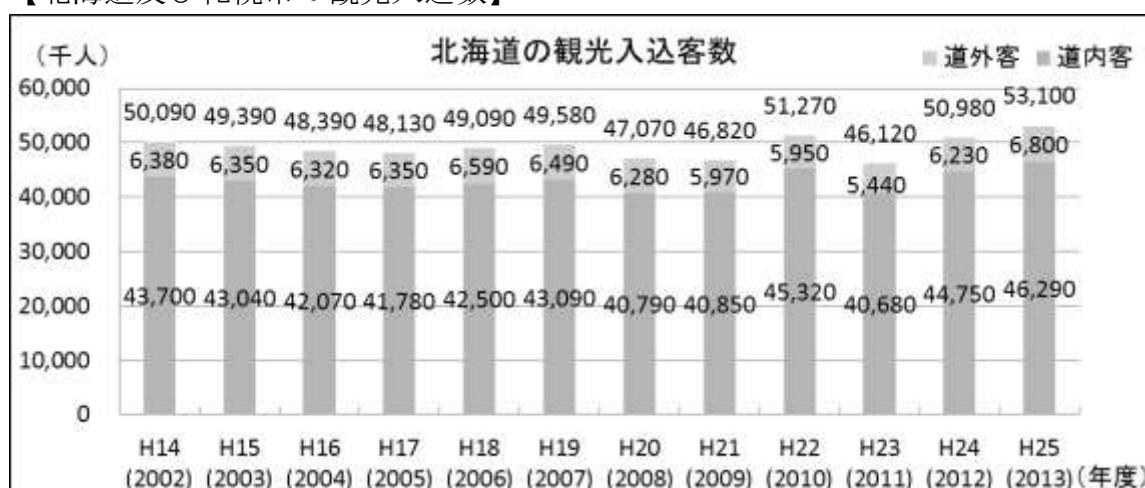
(1) 観光入込客数

観光入込数は、北海道では増減がありつつもほぼ横ばいとなっています。

札幌市は平成 18 年度から減少傾向にありましたが、近年では若干、増加傾向にあります。道外観光客は減少傾向にあり、道内観光客の割合が約 7 割と、その依存度が高い傾向が見られますが、札幌市以外の道内市町村の人口は減少局面に入っており、今後の道内観光客数への影響が懸念されます。

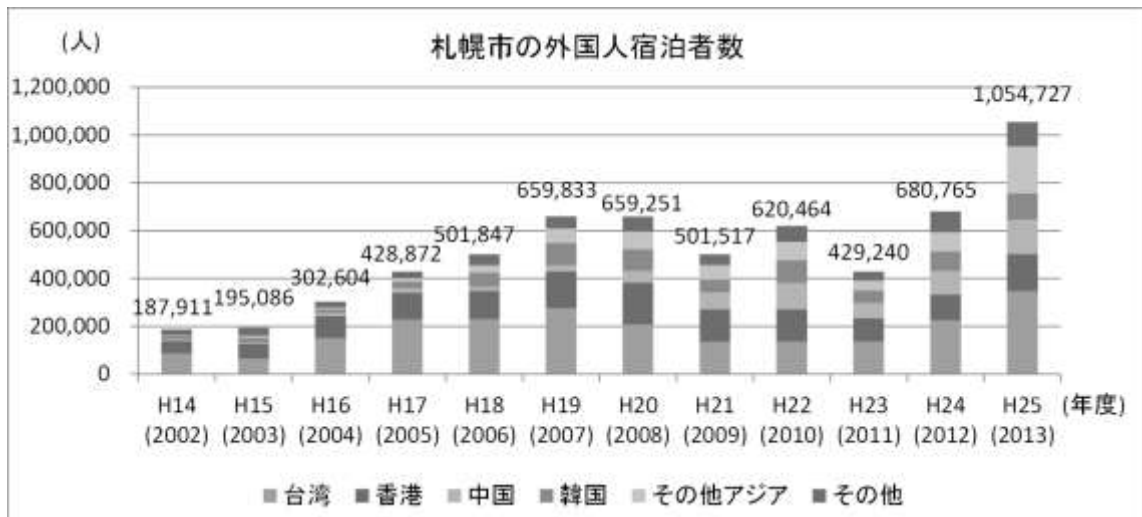
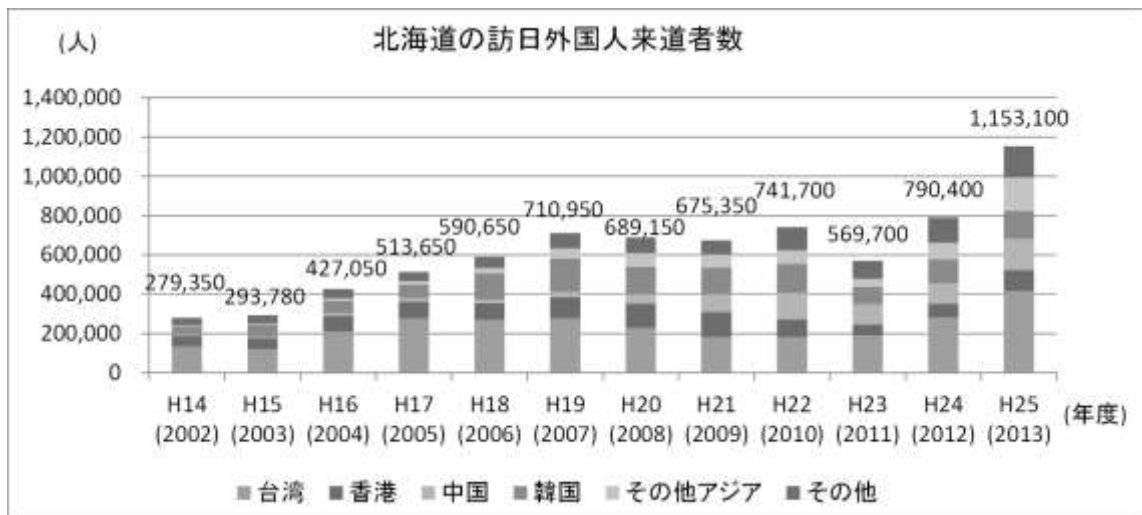
外国人来道者数及び外国人宿泊者数は、北海道と札幌市の増加傾向がほぼ同じ動きとなっています。国別では、最も割合の高い台湾は、平成 17 年度から平成 19 年度頃をピークに低下傾向にありましたが、平成 24 年度から急増し、平成 25 年度は過去 10 年間で最も多くなっています。また、平成 20 年頃から中国の増加が顕著となっており、タイやシンガポールなどの東南アジアや欧米も増加傾向にあります。

【北海道及び札幌市の観光入込数】



出典：北海道観光入込客数調査、札幌市

【北海道の訪日外国人来道者数及び札幌市の外国人宿泊者数】



出典：北海道観光入込客数調査

(2) 旅行形態の変化

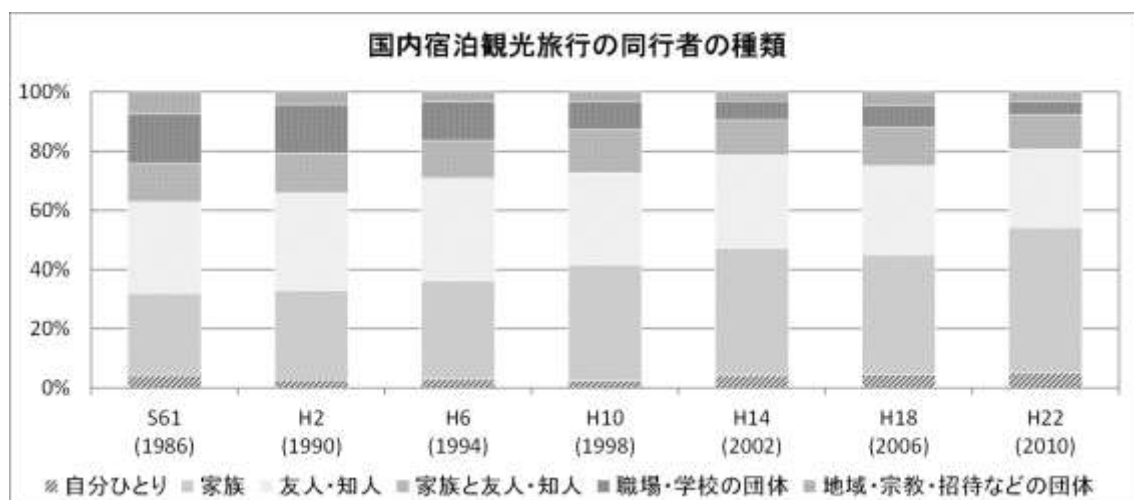
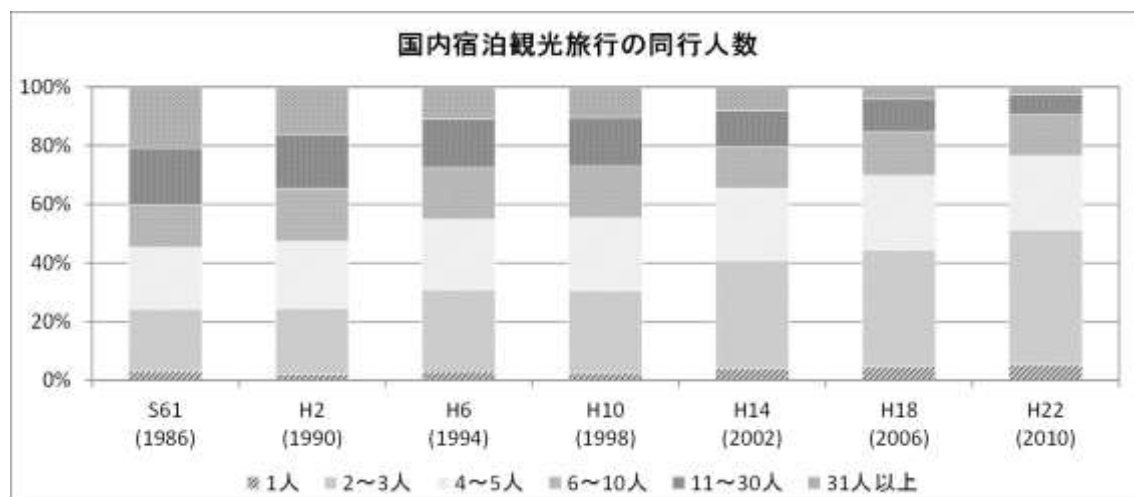
観光客の旅行形態は、団体旅行から個人旅行へ変化しつつあり、物見遊山の一点豪華型から生活感覚の交流・体験型を求める傾向が強く、従来のパターン化した旅行スタイルから、より個人の嗜好にあった旅行スタイルへと変化しています。

そのため、観光の目的は多様化されており、訪れた観光地での強いテーマ性が求められているといえます。

また、宿泊先の予約はインターネットでの予約が増加しているとともに、スマートフォンの普及により、発地・着地での情報収集においても、スマートフォンを活用する傾向もみられます。

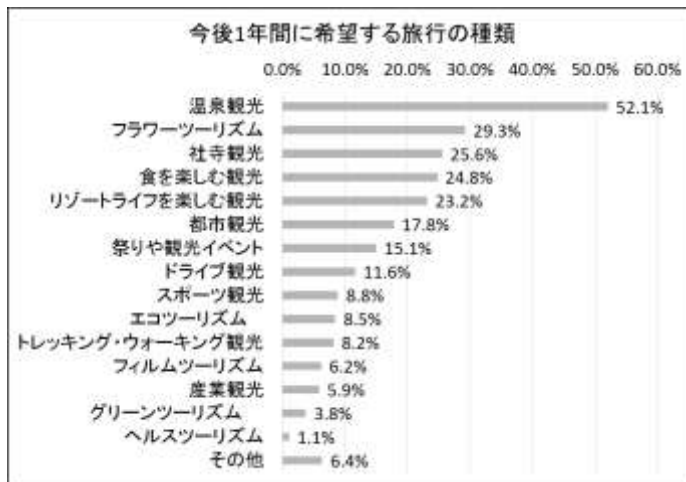
なお、若年層の車離れや他の娯楽の多様化などにより、若年層の旅行ニーズは低迷傾向にある一方、女性グループを中心に共通の目的をもった人達のサークルや、親子3世代、母親と娘の家族旅行などが増えています。こうしたことから、今後は女性やアクティブシニア（活動的な中高年）が需要の担い手となることが考えられます。

【国内宿泊観光旅行の同行人数及び同行者の種類】



出典：社団法人日本観光振興協会「平成24年度版観光の実態と志向」

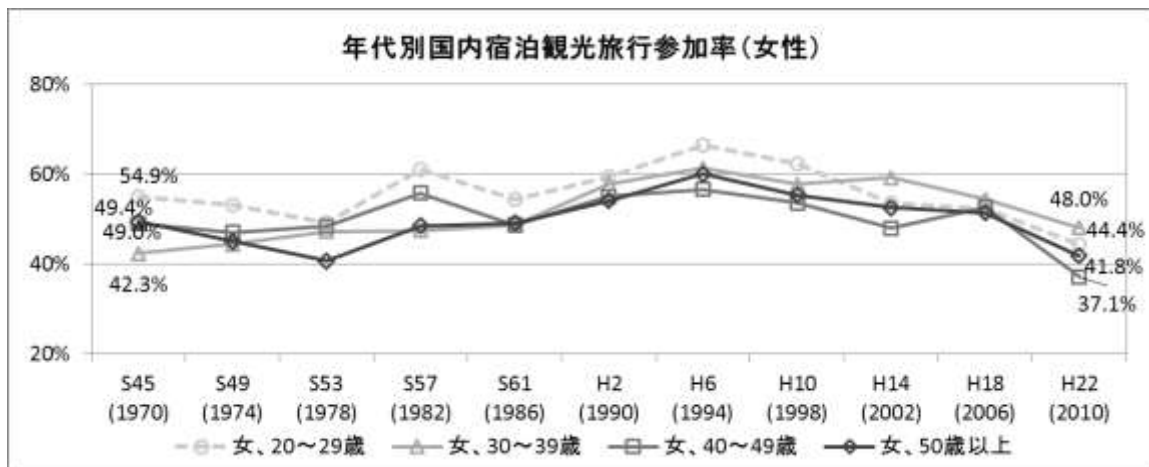
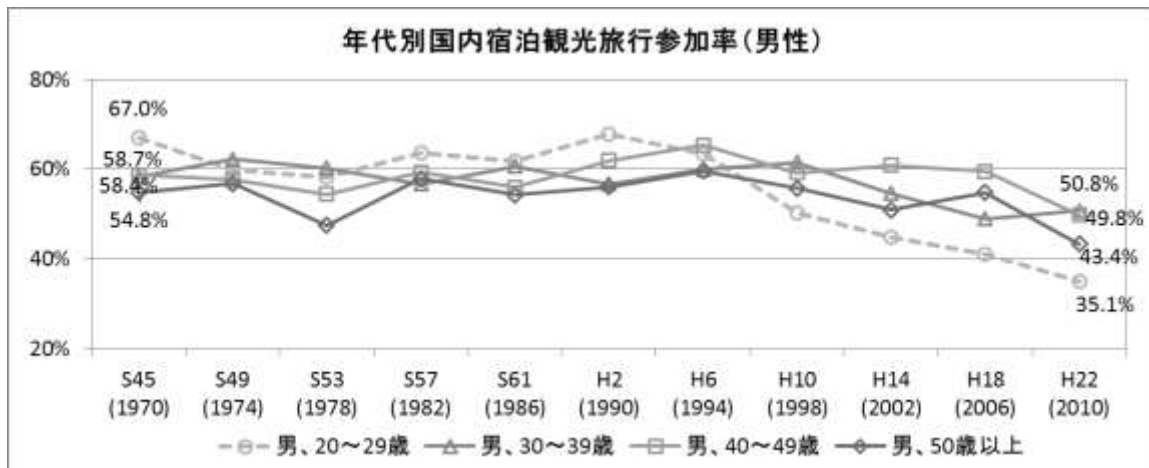
【今後1年間に希望する旅行の種類（国内）】



出典：公益社団法人日本観光振興協会

「平成25年度版観光の実態と志向」

【年代別国内宿泊観光旅行参加率】



出典：社団法人日本観光振興協会「平成24年度版観光の実態と志向」

(3) 観光政策に関する国や地方の取組

平成 14 年に「グローバル観光戦略」が策定され、「ビジット・ジャパン・キャンペーン」として、観光立国の実現のため、官民一体となった訪日外国人旅行者数の拡大を目的としたキャンペーンが進められています。

また、平成 32 年の夏のオリンピック・パラリンピック東京大会の開催を見据え、東京のみならず地方にも訪日外国人旅行者の拡大を波及させるためのさまざまな取組が進められています。

北海道においては、「北海道観光のくにつくり条例」(平成 13 年制定)に基づき、平成 25 年 5 月に「北海道観光のくにつくり行動計画」を、同年 7 月には「北海道外国人観光客来訪促進計画」を策定しているほか、北海道運輸局も、同年 3 月に「北海道観光推進戦略」を公表するなど、さまざまな主体が北海道の観光振興の促進に取り組んでいます。

○ビジット・ジャパン・キャンペーン

訪日外国人旅行者の拡大を目的として、アジアや欧米などの 14 カ国の消費者と旅行会社に向け、官民一体となって進めているキャンペーン。

主な取組として、海外の旅行雑誌や WEB を通じて訪日観光の魅力を発信する「海外広告宣伝」、現地メディアや旅行会社を日本の観光地へ招請する「海外メディア・旅行会社招請」、現地消費者や旅行会社が集まる旅行博での PR を行う「旅行博出展」、観光庁と旅行会社が共同で広告を実施する「ツアー共同広告」などがあります。

○北海道外国人観光客来訪促進計画 (計画期間：平成 25 年度～平成 29 年度)

平成 25 年 5 月に策定された「北海道観光のくにつくり行動計画」などの趣旨に基づき、自然環境や地域の歴史などの観光資源を『四季・感動・北海道』のテーマのもと、国際競争力を有する質の高い観光地づくりや地域独自の魅力を活かした旅行商品開発の促進などを進めていくこととしています。

○北海道観光推進戦略

北海道観光が直面する「遠い、広いから高い、そして日数がかかる」という本質的な問題を踏まえ、「いまあるモノ・コトを掘り起こし磨き上げ、新連携・新結合で観光を通じた高付加価値実現と持続可能なちいきづくりを総がかりで目指す」という計画です。

(4) 交通環境の変化

近年、新千歳空港における航空の動向が大きく変化しています。

平成 24 年から格安航空会社（LCC）各社が新千歳空港と国内各空港を結ぶ航空便の運航を開始したことで、より気軽に北海道に来ることができるようになってきています。加えて、近年では、新千歳空港に海外からの直行便が増加したことで、海外客も増加傾向にあります。

また、北海道新幹線の開業予定があり、札幌圏への新たな観光需要の創出の可能性を秘めていると期待されています。

■新千歳空港—国際線 発着便数

平成 26 年 10 月 26 日現在

路線	航空会社	便数	就航年月
北 京	中国国際航空	週 4 便	平成 19 年 4 月
グ ア ム	ユナイテッド航空	週 2 便	平成 2 年 7 月
香 港	キャセイパシフィック航空	週 4 便	平成 2 年 10 月
釜 山	大韓航空	週 3 便	平成 18 年 6 月
ソウル（仁川）	大韓航空	週 11 便	平成元年 6 月
	ジンエアー	週 5 便	平成 23 年 7 月
	ティーウェイ航空	週 5 便	平成 25 年 12 月
上 海	中国東方航空	週 7 便	平成 13 年 8 月
	春秋航空	週 4 便	平成 26 年 10 月
台 北	エバー航空	週 7 便	平成 15 年 3 月
	チャイナエアライン	週 7 便	平成 18 年 7 月
	トランスアジア航空	週 2 便	平成 24 年 9 月
ホ ノ ル ル	ハワイアン航空	週 3 便	平成 24 年 10 月
バ ン コ ク	タイ国際航空	週 7 便	平成 24 年 10 月
ユジノサハリンスク	オーロラ航空	週 2 便	平成 13 年 7 月

出典：札幌市

3 国内温泉地の状況

観光経済新聞社の2013につぼんの温泉100選ランキングによると、草津、由布院、登別は2年連続でトップ3内に入っています。

温泉らしさを感じることができる特徴的な施設や、そぞろ歩きができる店舗が集積した温泉街が人気となっていると伺えます。

北海道の温泉地では、3位の登別、28位の湯の川に次いで、定山溪が36位にランキングされています。

※2013につぼんの温泉100選は、全国の温泉地（宿泊を伴わない温泉地は除く）から旅行者による投票などで選ばれた上位100の人気温泉地です。

【国内温泉地のランキング（2013年）】

順位	前年	温泉名	所在地
1	1	草津	群馬県
2	3	由布院	大分県
3	2	登別	北海道
4	9	別府八湯	大分県
5	6	下呂	岐阜県
6	5	指宿	鹿児島県
7	4	黒川	熊本県
8	7	道後	愛媛県
9	8	有馬	兵庫県
10	11	箱根湯本	神奈川県
...
28	15	湯の川	北海道
...
36	37	定山溪	北海道
...
43	49	阿寒湖	北海道
...
61	63	知床・ウトロ	北海道
...
65	39	洞爺湖	北海道

出典：2013につぼんの温泉100選（観光経済新聞社）

【参考】上位の温泉地の特徴

草津温泉（群馬県）

・温泉街の中心に位置する湯畑の周りは、湯上がりの散策が楽しめる広場となっており、多くの観光客が訪れています。また、湯畑の周辺にある日帰り温泉や足湯、湯もみショーも観光スポットとなっています。



由布院温泉（大分県）

・都会にない湯布院らしい街並みの湯の坪街道にはさまざまな土産店などが集積しており、そぞろ歩きを楽しむことができます。また、周辺にも観光資源が点在しています。



登別温泉（北海道）

・温泉街から硫黄の香り漂う地獄谷へ続く坂道は、多くの観光客がそぞろ歩きを楽しんでいます。また、地獄谷の周辺には駐車場が完備されており、日帰り客も気軽に立ち寄ることができます。



第3章 定山溪観光の現状と課題

1 位置・交通・歴史

(1) 位置・自然環境

札幌市南区にあり、札幌中心部から南に約30km、支笏洞爺国立公園の区域内に位置する定山溪は、札幌岳や余市岳など、1,000m級の山々に囲まれた自然豊かな環境となっています。

定山溪エリアの中央には、札幌の母なる川である豊平川が流れ、定山溪ダムを有するさっぽろ湖や豊平峡ダムの定山湖が位置しています。

定山溪温泉は豊平川の渓谷美の豊かな温泉地となっており、河川沿いにホテル・旅館が数多く軒を連ねています。

【自然に囲まれた定山溪の渓谷美】



【豊平峡ダム】



(2) 交通アクセス

定山溪は、札幌市中心部と国道230号で結ばれており、自動車を利用して約1時間でアクセスすることができます。

公共交通機関は、路線バス（じょうてつバス）が札幌駅前バスターミナル、地下鉄真駒内駅と定山溪地区との間を運行しているほか、札幌市街地と定山溪を結ぶ直行バス「かっぱライナー」や新千歳空港との間の直行バスも運行しています。

また、国道230号により中山峠を経て喜茂別町に抜けるほか、道道小樽定山溪線により朝里峠を経て小樽市と隣接しています。

定山溪温泉の中心部から小金湯や八剣山などの周辺エリアは、自動車を利用して10分圏内、札幌国際スキー場へは約30分となっています。



出典：札幌湯の杜 定山溪（パンフレット）

【定山溪温泉と周辺との所要時間（自動車）】

- ・定山溪温泉⇄小金湯温泉（約10分）
- ・定山溪温泉⇄八剣山（約10分）
- ・定山溪温泉⇄豊平峡（約5分）
- ・定山溪温泉⇄札幌国際スキー場（約30分）
- ・定山溪温泉⇄札幌駅（約60分）

(3) 歴史

定山溪の歴史は古く、慶応2年(1866年)に修験僧・美泉定山(みいずみじょうざん)がアイヌの人々の案内で泉源と出会った時に始まり、幾多の困難を乗り越え温泉の礎を築いた定山の功績から、この地が「定山溪」と命名されました。

定山没後も、恵まれた自然環境とその豊富で良質なお湯とともにまちは発展し、開湯から130年にあたる平成8年(1996年)に「健康保養地宣言」を行っています。

また、平成28年には開湯150周年を迎えます。

【定山溪温泉のかつての街並み】



【定山溪の沿革】

年	沿革
1858(安政5)	松浦武四郎が山道開削のため、虻田を経て豊平まで調査をする(定山溪に一泊)
1866(慶応2)	美泉定山がアイヌの道案内で温泉を認め、湯治場をつくる
1871(明治4)	定山が岩村判官から湯守りを命じられる。東久世長官がこの地を「常山溪」と命名
1876(明治9)	定山が小樽～定山溪間の山道を開くため測量を開始
1877(明治10)	定山行方不明後、入滅
1887(明治20)	小金湯温泉始まる
1891(明治24)	定山溪に駅通所設置
1905(明治38)	定山溪神社創設、月見橋完成
1907(明治40)	定山溪発電所完成、送電を開始
1918(大正7)	定山溪鉄道開通
1923(大正12)	小樽新聞が公募した北海道三景に選ばれる
1924(大正13)	初のガイドブック「定山溪仙境」発行される
1936(昭和11)	岩戸観音堂建立
1949(昭和24)	支笏洞爺国立公園に指定
1961(昭和36)	札幌市定山溪となる(札幌市・豊平町合併)
1965(昭和40)	かつば祭り始まる。温泉街ロードヒーティング完成
1969(昭和44)	定山溪鉄道廃止
1972(昭和47)	南区定山溪となる(政令指定都市移行)、豊平峡ダム完成
1978(昭和53)	札幌国際スキー場オープン
1989(平成元年)	定山溪ダム完成
1991(平成3)	メルヘンかつば像完成
1996(平成8)	開湯百三十年・健康保養地宣言をする
2001(平成13)	かつば家族の願かけ手湯、長寿と健康の足つぼの湯完成
2003(平成15)	足のふれあい太郎の湯完成
2005(平成17)	定山源泉公園完成

【定山溪鉄道】

定山溪鉄道は、大正4年(1915)定山溪鉄道株式会社が設立され、大正7年(1918)の秋、白石～定山溪の区間(6駅29.9km)に開通しました。当時は「札幌の奥座敷」として地方からの行楽客も多く増えましたが、戦時になり行楽客も激減。昭和中期には団体バスやトラック輸送に切り替わり、さらに冬季オリンピックによる地下鉄建設に伴い廃止となりました。

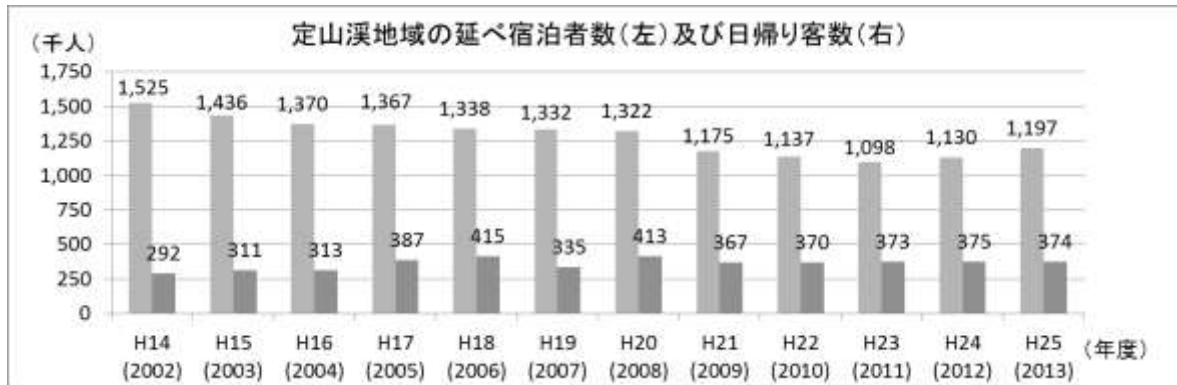


定山溪鉄道

2 利用状況

定山溪地域の延べ宿泊者数は、団体旅行の減少などに伴い年々減少傾向となっておりますが、近年はほぼ横ばいで、平成 25 年度は約 120 万人となっております。日帰り客数はほぼ横ばいで、平成 25 年度は約 36 万人となっております。

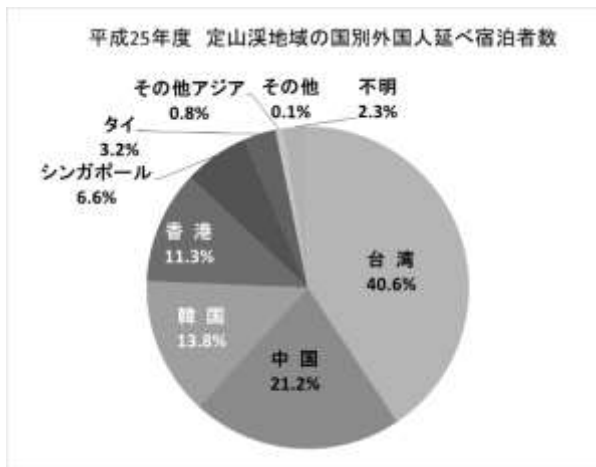
外国人延べ宿泊者数は、増減はあるものの年々増加しており、平成 25 年度は約 13 万人となっております。国別で見ると、台湾が約 4 割と最多で、続いて中国、韓国、香港、シンガポール、タイの順に多く、アジアが 98% を占めています。



注) 12歳未満等を除いている。



出典：札幌市



出典：札幌市



※宿泊者に対するアンケートにおける回答者の居住地を集計したもの

出典：定山溪の魅力に関するアンケート調査報告書 平成 25 年 3 月（札幌市）

3 観光資源

自然・文化

支笏洞爺国立公園内に位置し、エリアの中央には雄大な豊平川が流れ、その周辺の緑豊かな渓谷が特徴です。また、定山溪温泉を囲むように標高 1,000 メートル前後の山々が連なり、紅葉の時期になるとこれらの渓谷や山々が鮮やかに色づきます。

近郊には豊平峡ダム、定山溪ダム下流園地や三笠緑地、小金湯さくらの森など、自然を生かした資源が多くあります。

また、定山溪鉄道の跡地や、アイヌ民族の生活・文化を学べる施設もあります。

アクティビティ

定山溪の自然を生かしたアクティビティが充実し、カヌーやラフティング、パークゴルフ、登山、乗馬などを楽しむことができます。

冬季のメニューも充実しており、札幌国際スキー場では、ゴールデンウィーク明けまで本格的なスキー・スノーボードが楽しめるほか、三笠緑地などではそり滑りやスノーシューなどの体験が可能です。

そのほか、果物狩りやジャム作りなど、さまざまなメニューが体験できる果樹園や、ワイナリーもあります。

温泉・足湯

定山溪温泉（ナトリウム塩化物泉「熱の湯」）、小金湯温泉（単純硫黄泉・弱アルカリ性「心臓の湯」）、豊平峡温泉（重層泉「美人の湯」と 3 つの泉質が異なる温泉があります。それら 3 つの温泉で日帰り利用ができるため、湯めぐりを楽しむことができます。また、定山溪温泉には 3 か所の無料足湯と 1 か所の手湯があります。

温泉はもちろん、カヌー遊びやお食事、お土産など、周遊を促す「定山溪ぶらり手形」の取組などもあります。

食・土産

そばやラーメン、カレーなどの食事処が点在しています。

近年では、女性客を中心にホテルのランチビュッフェの人气が高まりを見せています。また、パン屋やカフェなど、若い世代の誘客につながる店舗も出店されつつあります。

土産品は定番の温泉まんじゅうのほか、幻のたまねぎ「札幌黄」を使用した「たまねぎすうぷ」などもあります。

【定山溪ぶらり手形】

定山溪観光案内所にて期間限定で販売しており、手形に付いている 4 枚のシールは各ホテルの日帰り入浴、アクティビティや飲食、おみやげ店などで利用できます。



出典：一般社団法人 定山溪観光協会ホームページ

【定山溪のイベントなど】

春

◆定山溪温泉溪流鯉のぼり

毎年、子どもの日にちなみ4月上旬から約1ヶ月、豊平川の上空に鯉のぼりを掲揚しています。

◆定山溪かっぱバス・春紅葉

やわらかな日差しの春に、定山溪のみどりを巡るガイド付きのバスツアーです。



定山溪温泉溪流鯉のぼり

夏

◆定山溪かっぱんラリー

定山溪をまわるクイズラリーを行い、クロスワードを完成させた方に商品を進呈します。

◆岩戸観音堂大祭

交通安全を祈願して建立された観音堂で年に一度、祭礼が盛大に行われます。

◆Jozankei JAZZ TOWN

定山溪神社で開催される入場無料のジャズコンサートです。

◆定山溪かっぱウォーク

真駒内から定山溪までの約20kmを大勢で歩き、終了後は日帰り温泉が利用できます。



Jozankei JAZZ TOWN

秋

◆定山溪神社祭り

地元の有志の若い衆が神輿（みこし）をかついで、温泉街を練り歩きます。

◆紅葉かっぱバス

定山溪の絶景紅葉ポイントを案内するバスツアーです。

◆紅葉ゴンドラ

札幌国際スキー場のゴンドラに乗車し、定山溪の紅葉を空中から眺めることができます。



紅葉ゴンドラ

冬

◆定山溪温泉雪灯路

札幌雪まつりの協賛イベントで、定山溪神社の境内に願掛けのノーキャンドルを灯します。また、同時にフォトコンテストも開催しています。



定山溪温泉雪灯路

【定山溪の観光資源】



岩戸観音堂



長寿と健康の足つぼの湯



三笠緑地



二見吊橋・かっぱ淵



二見公園



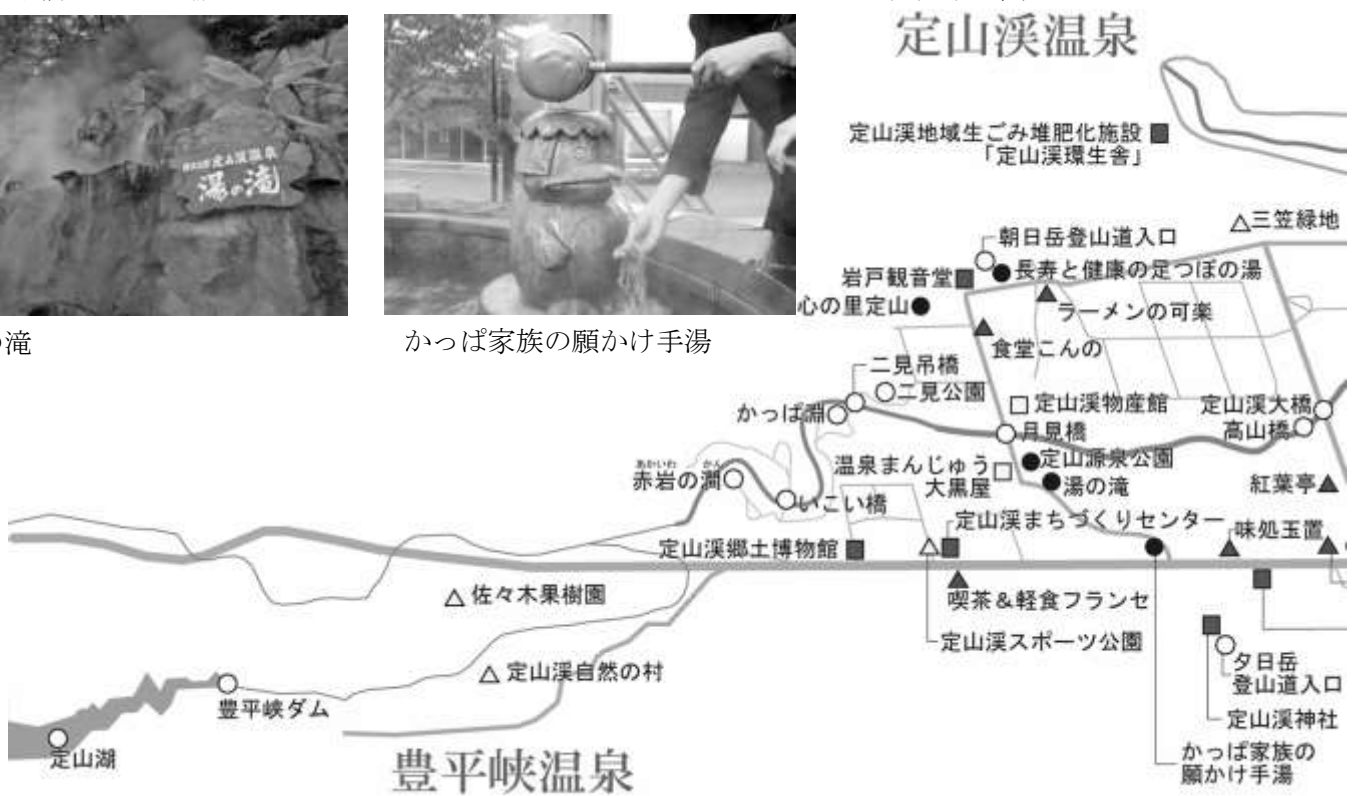
定山源泉公園



湯の滝



かっぱ家族の願かけ手湯



豊平峡ダム



定山溪郷土博物館



定山溪神社



定山溪ダム



まいづる とろ
舞鶴の瀨



札幌国際スキー場



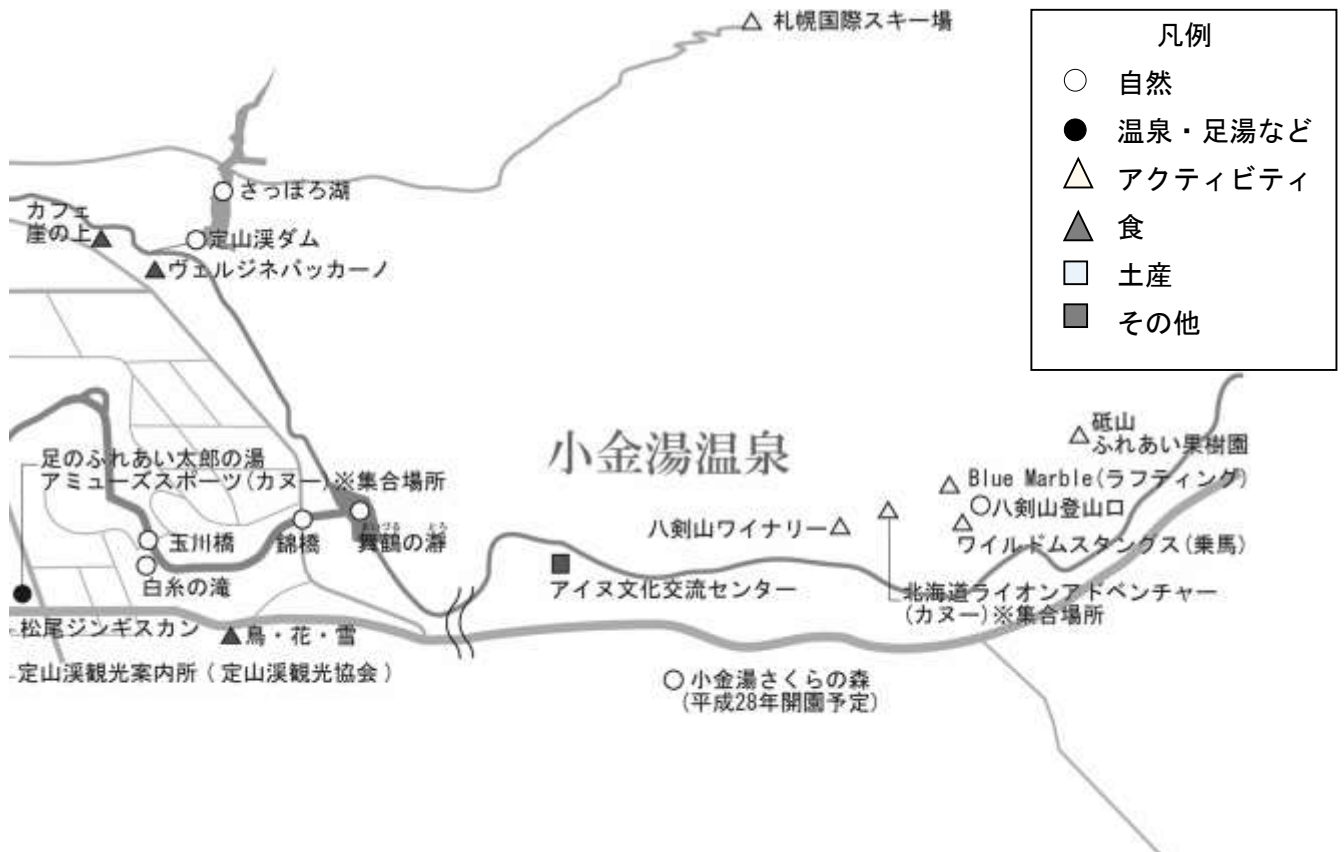
アイヌ文化交流センター



八剣山ワイナリー



乗馬



足のふれあい太郎の湯



カヌー



ラフティング

4 定山溪の特性と現状分析

(1) 特性と強み

定山溪は、支笏洞爺国立公園の区域に立地し、豊かな自然に囲まれています。山々に囲まれた溪谷には豊平川が流れ、春には淡い緑の移り変わりを楽しむ春紅葉を、秋には色鮮やかな紅葉を見ることができるなど、四季折々の自然の表情を感じることができます。

近くに、一般の方が容易に行くことのできる道内唯一のアーチ式コンクリートダムである豊平峡ダム、道内で2番目の高さを誇る定山溪ダムを有し、札幌市194万人の水道の大半を供給しています。高さ100mを超える多目的ダムが2つもある政令指定都市は札幌市だけで、豊平峡ダムの定山湖はダム湖百選に、定山湖上流の森は水源の森百選にも選ばれています。

豊かな森と水資源を有するため、定山溪温泉の源泉は自然湧出にもかかわらず豊富に湧き出ており、湯温も高温です。定山溪には、定山溪温泉・小金湯温泉・豊平峡温泉の3つの温泉があり、それぞれが近接する立地環境にありながら異なる泉質を楽しむことができます。

このような自然環境でありながらも、札幌市中心部から車を利用して約1時間で訪れることができ、近代的で快適なホテル・旅館が多く、都市型の温泉観光地であるともいえます。

保養所などを除くと、ホテル・旅館は、定山溪温泉に15軒、小金湯温泉に2軒あり、宿泊や日帰り温泉として利用できます。

自然に囲まれた定山溪では、札幌国際スキー場や登山、カヌー、果物狩り、パークゴルフなどのさまざまなアクティビティを楽しむこともできるほか、地形を生かしたパン屋やカフェなどの新たな魅力となるお店もみられるようになっていきます。

- ・ 支笏洞爺国立公園に立地する豊かな自然
- ・ 四季折々の表情を味わうことができる自然
- ・ 札幌市街地から1時間圏内の都市型温泉観光地
- ・ 高温で湯量も豊富な自然湧出源泉（定山溪温泉）
- ・ 泉質の異なる3つの温泉地の立地
- ・ 2つの大規模なダムやダム湖を有する環境
- ・ 老若男女が楽しめるさまざまなアクティビティ
- ・ 新規出店による新しい需要の可能性

(2) 現状分析

① 宿泊者数の減少、客層の変化

定山溪は、札幌の奥座敷として発展してきましたが、近年では、個人旅行への旅行形態の変化や団体利用の減少により、宿泊者数がピーク時と比べて大きく減少しています。また、今後の人口減少や高齢化などにより国内客のさらなる減少が懸念されます。一方、アジア圏からの海外客は大幅に増加しています。

② 完結型の大型ホテル群

定山溪温泉は、昭和 40 年代の高度経済成長に伴う旅行の大衆化などにより、大型旅館・ホテルの建設が始まり、現在の大型ホテル群の温泉街の姿となりました。

旅行形態が個人旅行へシフトしていく中、ホテル完結型の宿泊利用では様々なニーズに対応しきれなくなってきました。

③ 温泉施設などの老朽化

都市型の温泉地でありながら、定山溪の中央を流れる豊平川沿いを中心に立地するホテル・旅館などの建物及び、河川沿いの温泉施設、散策路、足湯、サインなどの老朽化が進んでおり、維持管理も行き届いていないため寂れた印象を受ける箇所もあります。また、老朽化やサイン不足などにより来訪者が利用する際に利用しにくい箇所もあります。

④ 温泉情緒や定山溪の顔となるような特徴的なイメージの弱さ

定山溪はかつて奥座敷として栄え、温泉情緒や温泉街らしさを感じることができましたが、現在では、温泉街の喪失や温泉らしさを感じる街並みや施設、要素などの低下により、温泉地としての印象が感じられなくなっています。

また、他の温泉地と差別化が図れるような、定山溪の顔となる代表的・特徴的なイメージが創出されていません。

⑤ 空き店舗や空き施設の増加

定山溪には、国道 230 号や定山溪中央線を中心に、ホテル・旅館をはじめ、飲食店等の店舗がありますが、近年では、ホテル・旅館や保養所の空き施設や道路沿線の空き店舗が増えています。

⑥ 国道 230 号の拡幅

定山溪の主要幹線道路である国道 230 号は、片側 2 車線の拡幅整備の計画があり、定山溪を取り巻く交通環境が大きく変化します。

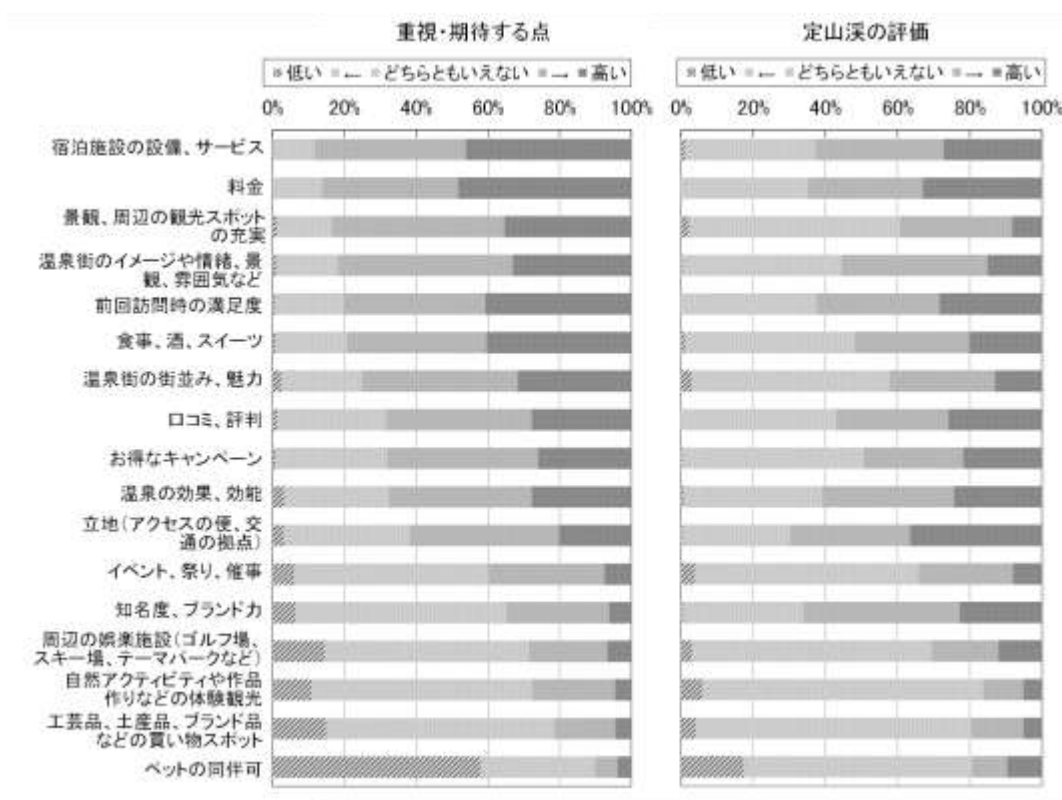
これにより、交通混雑が解消され、快適で安全な交通が実現し、アクセスの向上による交通量の増加など新たな観光需要の喚起につながると期待されます。

また、拡幅に伴う沿道の施設や店舗の建て替えや移転により、街並みが大きく変わる可能性があります。

⑦ 温泉以外の+αの魅力の潜在化

全国の人気のある温泉地では、温泉のほかに、「食事」や「土産」、「散策」、「外湯巡り」、「体験」などの魅力が点在し、それが観光地としての人気となっていますが、定山溪には温泉以外の+αの魅力がたくさんあるものの、まだ十分には知られておらず、活用しきれていません。

【温泉地・宿泊地選択の際に重視する点と定山溪の評価】



※「温泉地・宿泊地選択の際に重視する点」は、過去3年間に定山溪への宿泊を検討したが、宿泊しなかった人を対象としたウェブアンケート、「定山溪の評価」は宿泊者へのアンケート。

出典：定山溪の魅力に関するアンケート調査報告書 平成25年3月（札幌市）

⑧ 定山溪までの交通アクセス

市民にとって、札幌中心部から1時間圏内にある自然豊かな温泉地は、定山溪の魅力の一つであり、強みでもあります。

一方、市内中心部に宿泊することが多い市外からの観光客にとっては、目的がない限り、遠い立地にあるともいえます。

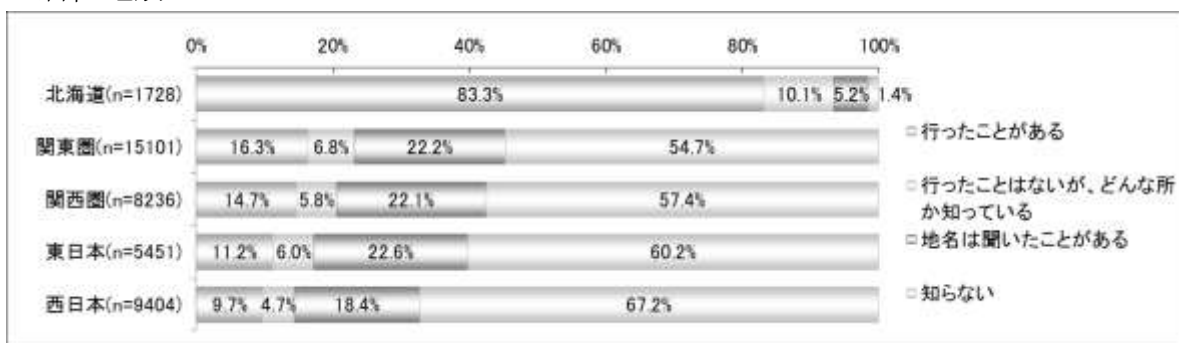
定山溪までの移動手段は自家用車が主となっており、公共交通機関としては、JR 札幌駅など発着のかっぱライナー、または路線バスとなっています。

⑨ 定山溪及び観光資源やアクティビティなどの認知度不足

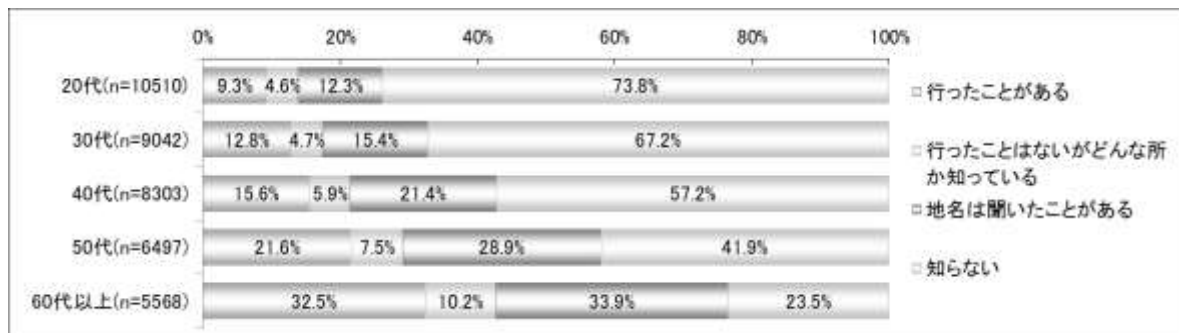
平成 24 年度のアンケート調査によると、道外在住者や、若い世代の定山溪に対する認知度が高くありません。また、定山溪で楽しむことができるアクティビティなどもあります。それらの認知度も低く、市民の多くには知られていない状況であり、情報発信が不足しています。

【定山溪の認知度】

<居住地別>



<年齢別>



※全国の 20 歳以上の方を対象としたウェブアンケート

出典：定山溪の魅力に関するアンケート調査報告書 平成 25 年 3 月（札幌市）

⑩ 定山溪全体の観光魅力アップの機運の高まりと人材不足

定山溪には大小のホテル・旅館があり、近年では、一般社団法人定山溪観光協会を中心として、四季のイベントの開催や定山溪温泉 PR 隊長かっぱの活用など、定山溪全体での取組が進められ、ホテル・旅館同士の連携が図られてきています。

また、定山溪温泉の周辺には、札幌国際スキー場や豊平峡、小金湯温泉、八剣山などの観光資源や集客施設があります。それらの広域的な集客や定山溪全体としての取組に向けた連携やネットワークも増えつつあります。

さらに、南区全域が「札幌シーニックバイウェイ藻岩山麓・定山溪ルート」となっており、一般社団法人定山溪観光協会をはじめとする南区内の各種団体の連携で、雪あかりなど魅力向上の取組や、各種媒体を活用した情報発信が進められています。

しかし、地域住民の高齢化などに伴い継続的な取組が困難になっているという声もあり、今後の定山溪の観光魅力アップの取組を担う人材の不足が懸念されます。

【定山溪温泉 PR 隊長かつぼん】

一般社団法人定山溪観光協会から「定山溪温泉 PR 隊長」に任命され、さまざまなイベントなどで定山溪温泉の PR を行っています。平成 24 年 7 月には札幌市南区から特別住民票が交付されています。

出典：一般社団法人定山溪観光協会ホームページ



5 定山溪の観光魅力アップに向けた課題

定山溪観光の現状から、今後の定山溪の観光魅力アップに向けて、以下の課題への対応が求められます。

① 宿泊者数の減少、客層の変化への対応

団体客による1泊2日旅行が減り、個人客の多様なニーズへの対応がより一層求められます。また、今後予想される人口減少や高齢化に伴い、国内観光客が減ることが懸念され、2泊以上の滞在型の利用を増やすことが重要となります。

海外からの観光客は増加傾向にありますが、サインをはじめとした環境整備など、海外客への対応は不十分な状況といえます。

② 拠点性と周遊性の向上

定山溪温泉として、各ホテルによる囲い込み型からの脱却を図り、「食」をはじめとする、ホテルの外での楽しみや魅力を創出し、既存の資源を活用することが重要です。土産店や茶屋、カフェなどの店舗の集積や温泉街、さらには来訪者が定山溪に来たら必ず行くような定番のスポットなど、拠点性と周遊性を高めることが求められています。

③ 温泉施設の老朽化などへの対応や環境整備

観光地の建物や観光施設、散策路、看板・サインなどの老朽施設は、来訪者の受ける印象を左右し、来訪者を迎え入れるホスピタリティにも大きく影響を与えます。

定山溪温泉には、老朽化した施設や維持管理が行き届いていないものが多くあり、それらの改善が求められています。

看板・サインについては、表記内容や方法、配置箇所などを適切でわかりやすくすること、温泉観光地としてのおもてなしについては、来訪者が利用しやすい清潔なトイレや駐車場の整備、美化活動、冬季の除排雪などが重要な要素となります。

都市型の温泉地として、美しくおしゃれな温泉地が求められており、これらの施設の老朽化への対応やまちとしての環境整備が必要となっています。

④ 温泉地らしいイメージの創出

別府温泉の湯けむり、草津温泉の湯畑など、国内で人気の高い温泉地では、温泉資源と地域特性を生かした温泉地らしい景観や施設があります。

しかし、定山溪温泉は、温泉街の喪失やホテルの建物の近代化などによって温泉地らしさが失われつつあるほか、温泉地らしいイメージを醸し出す施設が少ない状況です。

そのため、足湯などの整備や情緒を感じさせる湯けむりなどの演出による、温泉街らしさや温泉地の雰囲気づくりが求められます。また、温泉情緒を感じさせる要

素としては、「和」の雰囲気や浴衣を着てそぞろ歩きできる温泉街としての演出が重要です。

ハード整備と併せて、温泉街としてのソフトメニューの実施などにより、温泉地らしいイメージを創出することが必要となっています。

⑤ 空き店舗や空き施設、空き地への対応

現状、定山溪には空き店舗や空き保養所、廃業したホテルなどが見られます。また、国道拡幅に伴って沿道の商店などの移転や転出により空き地が発生することも想定されます。

空き店舗や空き保養所はまちの景観や来訪者のイメージにも影響があり、寂れた印象を与えてしまう恐れがあるため、景観悪化の抑制、さらには、空き店舗を活用したにぎわいづくりなどの新たな取組を進めることが求められます。

⑥ 国道拡幅に合わせたまちづくり

札幌中心部と結ぶ定山溪の主要幹線道路である国道 230 号の拡幅整備に伴って 4 車線道路になることにより、アクセスの向上による交通量の増加など新たな観光需要の喚起につながると期待される一方、通過型の交通量が増加し、定山溪への立ち寄りが減少することを懸念する向きもあります。また、沿道の施設や店舗の建て替えや移転が必要となります。

そのため、定山溪への出店の促進や温泉街の入口としてのゲート機能を高めることが求められます。

⑦ 定山溪エリアの魅力や観光メニューの増大と連携強化

定山溪といえば温泉のイメージがまず思い浮かびますが、定山溪エリアには、温泉だけではない楽しみ方や魅力がたくさんあります。

個人旅行の旅行形態や交流・体験型への嗜好の変化などを踏まえると、現状のホテル完結型から滞在型・体験型メニューの利用の拡大に向けて、札幌国際スキー場や豊平峡、小金湯温泉、八剣山などの観光資源とネットワークを構築し連携した観光魅力アップを進めることが必要となっています。

⑧ 交通アクセスの充実や魅力強化

現状、1 日数便の直行便が運行されていますが、定山溪での周遊やアクティビティ利用などを考慮するとともに、かつて定山溪鉄道が通っていた歴史なども活用して、定山溪までの移動やアクセスの魅力強化が求められます。

また、定山溪エリアの回遊促進に向けては、定山溪エリア内の周遊バスなどの交通アクセスの強化も検討が必要となります。

⑨ 定山溪の認知度の向上

定山溪には、温泉はもちろん、豊かな自然やアクティビティ、さまざまな魅力が点在していますが、札幌市民や道内客には、温泉として認知されているものの、周辺の資源や魅力の認知度は高くない状況です。

また、道外や海外に関しては、定山溪自体の認知度が低く、誘客を図るためにはまず認知度を高めることが求められます。

そのため、札幌市民、道内、道外、海外に対して、ターゲットに合わせた定山溪の魅力の情報発信やプロモーションを行うことが必要となっています。

⑩ 定山溪の観光魅力アップを担う人材や組織の育成

定山溪の魅力アップに向けて、温泉街の魅力の磨き上げ、さらには周辺の観光資源との広域的に連携した取組、にぎわい創出のためのソフト・ハード両面の取組、それらを踏まえた定山溪のプロモーションを連動させながら展開していくことが重要となります。

近年では多くの温泉地や観光地でボランティアガイドによるガイドツアーや観光案内、担い手の育成が取り組まれています。定山溪ではボランティアガイドに係る取組が進められていません。

また、空き店舗の活用、ホテル・旅館以外の新たな事業の参入や展開の促進という観点では、温泉観光地としてのエリアマネジメントも求められてくることが考えられます。

そのため、観光魅力アップを担う人材や、外部から支えてくれるファン・サポーター、さらには地域をマネジメントする組織や機能を育成することが求められます。

第4章 定山溪観光魅力アップで目指す姿

これまでの定山溪観光を取り巻く社会環境や、定山溪観光の現状と課題を踏まえ、定山溪の目指す将来像を掲げ、その実現に向けた基本的な考え方を示します。

1 目指す将来像

湯めぐり、森めぐり、水めぐり、

四季あそびー札幌定山溪

定山溪の発展の礎である「温泉」。

3つの泉質を楽しむことができる「温泉郷」。

風情あふれる温泉街をそぞろ歩きすると、

雄大な「溪谷美」やそこを流れる母なる川「豊平川」、
多種多様な「山野草」など、四季の表情を映し出す「自然」を
身近に感じ、心身ともに癒されます。

少し足をのばせば、

定山溪には温泉だけではない、たくさんの楽しみ方があります。

自然に包まれた、ちょっとオシャレな「食空間」。

ここだけの水・空・花・雪に触れ、

初心者向けから本格的なものまで楽しむことができる「アクティビティ」。

子ども連れから、家族、仲間同士、恋人同士、数名でも団体でも、

嗜好に合わせた過ごし方で

“癒し”と“楽しい”を感じることができます。

190万都市札幌の温泉観光地として、

このような、温泉を中心とした新しい価値と魅力をもった

「湯めぐり、森めぐり、水めぐり、四季あそびー札幌定山溪」を目指します。

2 将来像の実現に向けた基本的な考え方

新・奥座敷へ

心安らぐ“温泉” × 心躍る“+α”のリゾート空間

札幌の“奥座敷”として栄えてきた定山溪。

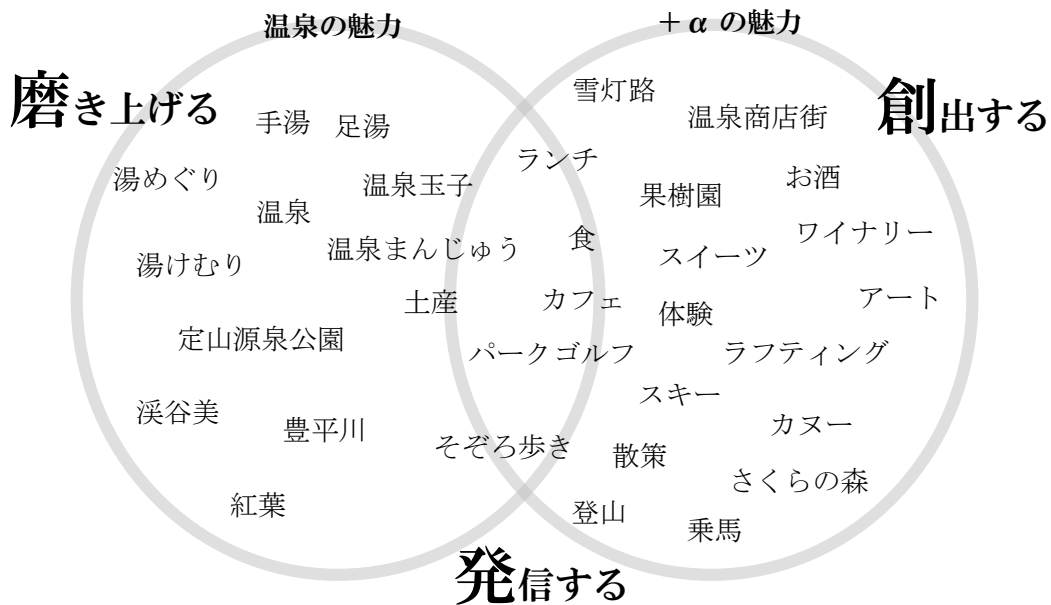
いつしか「気のおけない間柄の客をもてなす為の場所」という本来の奥座敷の意味合いからかけ離れ、札幌市街地からほど近い温泉地として、団体客の一泊宴会型で利用するイメージが強くなってしまっていることも事実です。

しかし、定山溪には、温泉での保養はもちろん、温泉以外にもさまざまな魅力があります。都心の喧騒を離れて落ち着いた時間の中で、家族や仲間と自然散策をしたり、活動的な体験をして遊んだりすることもできます。

定山溪の発展を支えてきた礎であり、まちの魅力の源泉である“温泉”をさらに磨き上げ、温泉地としての魅力を高めながらも、+αの魅力や資源を一体的に活用することで、定山溪の魅力の底上げや新しい価値の創造につながると考えます。

そのため、本来の癒しやおもてなしといった“奥座敷”としての定山溪を大事にしつつ、新しい魅力や価値を高めた「新・奥座敷」へシフトしながら、定山溪の観光魅力アップを進めます。

【キーワード】



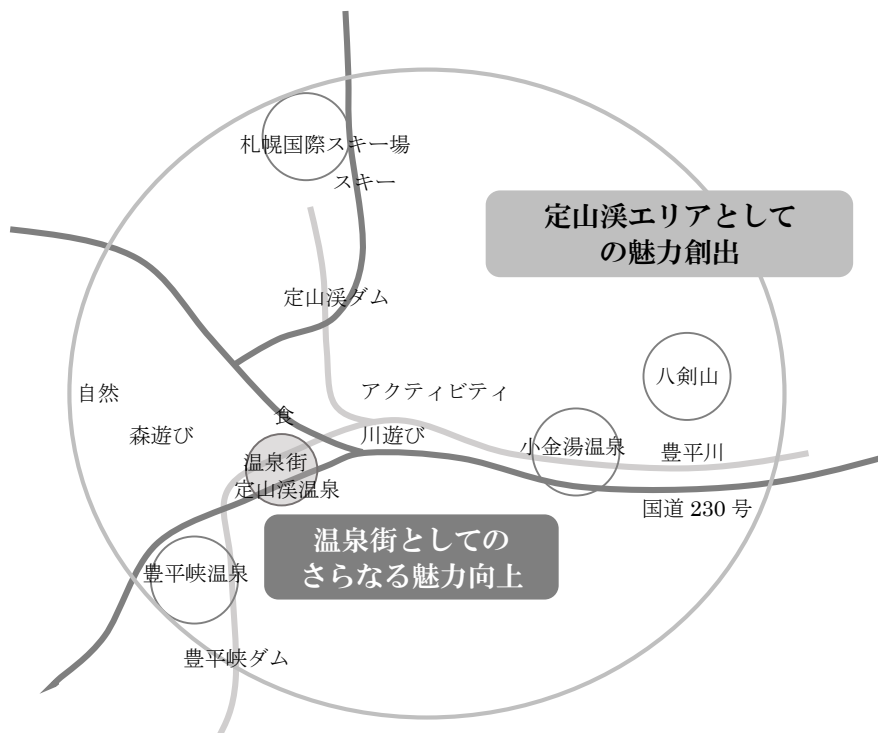
奥座敷：
本来の意味として、元々は一般の立ち入りが限られた環境で、気のおけない間柄の客をもてなす為の場所

基本的方向性

定山溪観光魅力アップの目指す将来像「湯めぐり、森めぐり、水めぐり、四季あそびー札幌定山溪」の実現に向けては、定山溪温泉街の情緒やそぞろ歩きをしたくなる環境などの「温泉街としてのさらなる魅力向上」と、広域的なリゾートエリアの構築のため、点在する観光資源を活用した「定山溪エリアとしての魅力創出」が重要となります。

そのため、これらの温泉街としての魅力の磨き上げと、定山溪エリアとしての魅力の創出の2つを主軸に、札幌市民、道内、道外、海外からの観光客それぞれの多様なニーズに合わせて、官民一体でさまざまな取組を推進していきます。

【基本的方向性のイメージ】



第5章 基本方針と展開

定山溪の観光魅力アップをめざす目標像の実現に向けて、以下の4つの基本方針を掲げます。

□定山溪の特性と強み

- ・支笏洞爺国立公園に立地する豊かな自然
- ・札幌市街地から1時間圏内の都市型温泉観光地
- ・高温で湯量も豊富な自然湧出源泉
- ・泉質の異なる3つの温泉地の立地
- ・2つの大規模なダムやダム湖を有する環境
- ・老若男女が楽しめるさまざまなアクティビティ
- ・新規出店による新しい需要の可能性

□観光魅力アップに向けた課題

- ①宿泊者数の減少、客層の変化への対応
- ②拠点性と周遊性の向上
- ③温泉施設の老朽化などへの対応や環境整備
- ④温泉地らしいイメージの創出
- ⑤空き店舗や空き施設、空き地への対応
- ⑥国道拡幅に合わせたまちづくり
- ⑦定山溪エリアの魅力や観光メニューの増大と連携強化
- ⑧交通アクセスの充実や魅力強化
- ⑨定山溪の認知度の向上
- ⑩定山溪の観光魅力アップを担う人材や組織の育成

■目指す将来像

湯めぐり、森めぐり、水めぐり、四季あそびー札幌定山溪

市民や観光客が嗜好に合わせてさまざまに楽しめるような、温泉を中心とした新しい価値と魅力をもつ札幌の温泉観光地を目指します。

■将来像の実現に向けた基本的な考え方

新・奥座敷へ

心安らぐ“温泉” × 心躍る“+α”のリゾート空間

■基本的方向性

温泉街としての
さらなる魅力向上

定山溪エリアとして
の魅力創出

■基本方針

- 1 温泉街らしさやにぎわいづくり
- 2 広域的なネットワーク化による新たな魅力創出
- 3 魅力を伝える情報発信・インフォメーションの強化
- 4 魅力アップの担い手育成とマネジメント

基本方針1 温泉街らしさやにぎわいづくり

観光魅力アップに向けた課題

- 課題① 宿泊者数の減少、客層の変化への対応
- 課題② 拠点性と周遊性の向上
- 課題③ 温泉施設の老朽化などへの対応や環境整備
- 課題④ 温泉地らしいイメージの創出
- 課題⑤ 空き店舗や空き施設、空き地への対応
- 課題⑥ 国道拡幅に合わせたまちづくり

基本方針のねらい

定山溪の温泉施設や観光スポットなどの整備や維持管理に札幌市と地域が連携して取り組み、都市型温泉地としての美しい温泉街をつくります。また、国道230号や定山溪中央線を中心とした温泉街の空き地・空き店舗などの活用や新たな拠点の整備、外を歩きたくなるような演出や仕掛けにより、そぞろ歩きが楽しいにぎわいのある温泉街を創出し回遊性を高めます。

基本方針の方向性

① 温泉施設や観光スポットなどの環境整備

魅力的な温泉街としての景観を保ち、多くの観光客に訪れてもらうため、バリアフリーの観点も踏まえつつ、老朽化が進んでいる温泉施設や観光スポットなどの改修を行うとともに、安全で美しい環境を保つよう維持管理を行います。

また、定山溪を訪れた際に必ず立ち寄りたくなる新たな情報発信拠点を整備するとともに、そこを基点として国内外からの来訪者が気軽に観光スポットを訪れたり滞留したりできるように、散策路やサインなどの再整備・改修を進めます。

【主な取組】

- 温泉を楽しめる施設などの改修や温泉情緒を感じさせる演出
 - ・足湯、定山源泉公園などの改修
 - ・安全・安心で美しい環境を保つための温泉施設の整備・改修
 - ・温泉情緒を感じさせるような湯けむりなどの演出
- 定山溪の顔となる新たな拠点の創出
 - ・スポーツ公園にある駐車場を活用した集客交流拠点施設の整備
(インフォメーション機能、郷土資料展示、トイレ、駐車場などを想定)
- 散策路の再整備
(集客交流拠点施設～湯けむり坂～月見橋～二見公園～二見吊橋間)
- 集客交流拠点施設を核とする各種施設整備に向けた基本計画策定
(二見公園及びトイレの再整備、散策路の環状化などの検討)

○サインの整備・改修

- ・サインの改修（老朽化、多言語対応など）
- ・歴史や自然などの説明サインや散策路の誘導サインの整備
- ・温泉街入口のゲート機能の創出

② 美しい都市型温泉観光地としての景観形成

都市型温泉観光地としての景観的な魅力を高めるため、景観イメージの共通認識を地域とともに構築し、国道 230 号や定山溪中央線を軸とした一体感のある良好な景観形成に向けて、段階的に取組を進めます。

【主な取組】

- 良好な街並みやにぎわいを感じる活動などにより景観的な魅力を高めるガイドラインの策定
- 景観形成のための取組
 - ・国道 230 号における電線の地中化の検討
 - ・温泉街における「和」の雰囲気づくり
 - ・沿道への植栽
 - ・温泉街の清掃・草刈・除雪による街並みの整備

③ 温泉街におけるにぎわいの創出

ホテル・土産店・飲食店などに立ち寄るなど、温泉街のそぞろ歩きを促進するため、実証実験及び検証を交えつつ取組を充実させ、にぎわいを創出します。

【主な取組】

- 各ホテルを気軽に立ち寄ってもらうための仕掛け
 - ・各ホテルの一角を活用したマルシェの開催
 - ・ホテルの土産店やトイレを誰でも気軽に利用できる工夫・発信
- 温泉街を歩いてもらうための仕掛け
 - ・空き店舗・空き地などの活用や店舗の誘致促進
 - ・周遊を促すための定山溪ぶらり手形のさらなる活用や充実
 - ・まち歩きガイドツアーなどのメニュー強化
 - ・ライトアップや食の集客などによる夜の魅力向上

基本方針2 広域的なネットワーク化による新たな魅力創出

観光魅力アップに向けた課題

- 課題① 宿泊者数の減少、客層の変化への対応
- 課題② 拠点性と周遊性の向上
- 課題⑦ 定山溪エリアの魅力や観光メニューの増大と連携強化
- 課題⑧ 交通アクセスの充実や魅力強化

基本方針のねらい

さまざまな楽しみ方ができるよう、食やアクティビティなどの新しい魅力を活用するとともに、それらの観光資源をつなぐ交通アクセスを含めたネットワーク構築の検討を官民が連携して行います。また既存のイベントを生かして広域的な取組に発展させ、新しいイメージと魅力を創出します。

基本方針の方向性

① 新しい魅力エリアの形成

定山溪温泉街から一足伸ばしたエリアには、パークゴルフやスキーが楽しめる三笠緑地や、ダム資料館や広場がある定山溪ダム下流園地など、活用できる観光資源がたくさんあります。また、石釜焼きのパン屋や崖の上に建つカフェなど、新しい魅力となる店舗の出店の動きもみられます。

これらの観光資源を活用して、食やイベントなどの新しい魅力を創出することにより、温泉街とは異なる魅力をもつエリアとして形成していきます。

【主な取組】

- ・パン屋やカフェなどの食の魅力スポットの観光資源としての活用
- ・三笠緑地周辺での雪を活用した滞在メニューづくりなどの魅力創出

② 温泉街をハブ（拠点）とした周辺観光資源との回遊性向上

定山溪エリアには、自然や歴史・文化に触れることができる観光資源や、四季を通して楽しめるさまざまなアクティビティがあります。各ホテル・旅館では体験型メニューと併せた多様な宿泊プランに取り組んでいる施設もあります。

また、新たに「小金湯さくらの森」（平成28年供用開始予定）といった魅力的な観光資源も形成されつつあります。

このような周辺観光資源の利用促進や周遊性向上、定山溪エリアでの滞在時間の延長を図るため、札幌市の水道水源である豊平川などの自然環境に配慮しつつ、周辺観光資源との連携強化や活用促進に取り組めます。

さらに、温泉街と周辺観光資源を巡るアクセスの向上を検討します。

【主な取組】

- ・周辺観光資源と連携したターゲットに応じた体験観光プランづくり
- ・アクティビティなどの周辺観光資源の情報集約と情報発信
- ・周辺観光資源を巡る周遊バスやレンタサイクルの検討
- ・「札幌シーニックバイウェイ藻岩山麓・定山溪ルート」の取組と連携した南区全体の観光魅力アップ

③ 定山溪エリアまでの交通アクセスの魅力向上

市民や観光客、さらには海外からの観光客も快適に定山溪エリアまで行けるように、札幌中心部などからの交通アクセスの魅力を高めます。

さらに、定山溪鉄道の歴史や白川フルーツ街道などを活用して、定山溪までの移動も観光の魅力の一つとして創出し、さらなる集客を図ります。

【主な取組】

- ・直行バス「かっぱライナー」の充実
- ・ガイドや歴史・食などの仕掛けによる定山溪までの移動の魅力向上
- ・真駒内駅前地区のまちづくりに合わせた交通アクセスの魅力向上の検討

④ 年間を通じた集客イベント事業の推進

定山溪で開催している四季に応じた集客イベントの充実を図るとともに、札幌市内の大型イベントとのコラボレーションなどを行います。

また、定山溪温泉は平成 28 年に開湯 150 周年を迎えます。この節目を、改めて定山溪エリアの魅力を知ってもらうきっかけとして、150 周年イベントや前年のプレイベントを開催します。

【主な取組】

- ・既存の春夏秋冬の各イベントの充実
- ・開湯 150 周年イベントやプレイベントの実施及び記念誌制作
- ・市内大型イベントとのコラボレーション

基本方針3 魅力を伝える情報発信・インフォメーションの強化

観光魅力アップに向けた課題

- 課題① 宿泊者数の減少、客層の変化への対応
- 課題⑦ 定山溪エリアの魅力や観光メニューの増大と連携強化
- 課題⑨ 定山溪の認知度の向上

基本方針のねらい

温泉をはじめとした定山溪エリアのさまざまな魅力を発信し、さらなる集客に繋げるため、温泉街や周辺観光資源の魅力を高めるとともに、それらの情報について、利用者の行動過程の中で、どのような観光情報をどのタイミングで必要としているかを踏まえ、ターゲットに合わせた情報発信・プロモーションを展開します。

「行ってみたい」から「定山溪だから行きたい」、そして「定山溪に行って楽しい」となるようなプロモーションを行います。

基本方針の方向性

① 知名度アップ及びイメージ構築

開湯 150 周年を一つの契機として、体験観光など、エリアとしての滞在型観光資源の充実、主要観光地とのアクセスのよさを生かし、北海道内の他の温泉地との差別化や知名度アップ、イメージの再構築のためのプロモーションを行っていきます。

また、海外に対しては、紅葉、雪、神社、浴衣など、「和」のイメージも活用し、情報発信を行います。

【主な取組】

- ・首都圏や関西圏を主なターゲットとした商談会や物産展でのPR
- ・東南アジアなど海外の有望市場への「和」のイメージを使ったプロモーション
- ・定山溪温泉 PR 隊長「かつぽん」の活用
- ・ツール多言語化（パンフレットなど）

② 観光行動を促す動機づけ

定山溪の認知度向上のほか、ターゲットに合わせて、新聞・テレビ・雑誌などのマスメディア、WEB や SNS を効果的に活用し、定山溪への観光行動を促すさまざまなアプローチによる多面的なプロモーションを実施します。

【主な取組】

- ・世代や目的などのターゲットに応じた媒体などを活用した情報発信
- ・ターゲットや利用目的別の過ごし方の提案

目的別（温泉目的、食事目的、健康目的、水遊び目的、森遊び目的など）
季節別（春紅葉、新緑、紅葉、ウィンタースポーツなど）
世代別（若者、女子旅、ファミリー、高齢者、三世代、職場旅行など）
対象マーケット別（市民、道内、道外、海外）

③ 到着後のサポート

定山溪エリアの魅力やアクセスなどについて情報を集約・発信するとともに、来訪者が到着後にリアルタイムな情報を入手し、魅力をより深く知ることができるよう、観光案内所の機能強化を図ります。

さらに、インフォメーション機能を備えた集客交流拠点施設の整備に併せて、まち歩きや体験活動の拠点機能を高めます。

【主な取組】

- ・ワンストップ窓口としての観光案内所の整備と機能強化
- ・まち歩きや体験活動の発着地としての拠点化

基本方針4 魅力アップの担い手育成とマネジメント

観光魅力アップに向けた課題

課題⑩ 定山溪の観光魅力アップを担う人材や組織の育成

基本方針のねらい

定山溪に興味・関心をもつ機会を増やすことで、地域住民はもとより札幌市民全体に「私たちの温泉地・定山溪」という意識を醸成するとともに、定山溪に愛着をもって応援し続けてくれる観光客を増やします。

さらに、定山溪の各観光資源の魅力向上やイベント実施、それらの情報発信などに関する担い手を発掘・育成し、継続的に魅力アップを推進します。

また、エリア全体としてのマネジメントについても推進します。

基本方針の方向性

① おもてなしを支える人材育成

定山溪の観光魅力アップやおもてなしのサービスを支える人材を育成し、観光客を受け入れる体制の底上げを図ります。

また、さまざまな関わりを通じて、定山溪の次代の担い手を発掘し、育成していきます。

【主な取組】

- ・観光案内所を活用したホテル従業員への講習や研修の充実
- ・観光関係者が一体となった温泉街の草刈などの環境美化活動の推進
- ・地域住民やホテル従業員による観光ボランティアの育成

② 定山溪ファンやサポーターづくり

観光資源やイベントの体験機会の増加、情報発信の工夫などを通じて、子どもや学生、観光客などを含めた幅広い定山溪ファンづくりを行います。

また、定山溪への愛着をもって、観光関係者や地域住民と一緒に、魅力向上に取り組むサポーターを育てていきます。

【主な取組】

- ・市内の児童生徒、教員を対象にした体験学習の推進
- ・SNSなどを活用した定山溪ファンづくり
- ・市内高校生や大学生などによるイベント協力の体制づくり

③ エリアマネジメントの推進

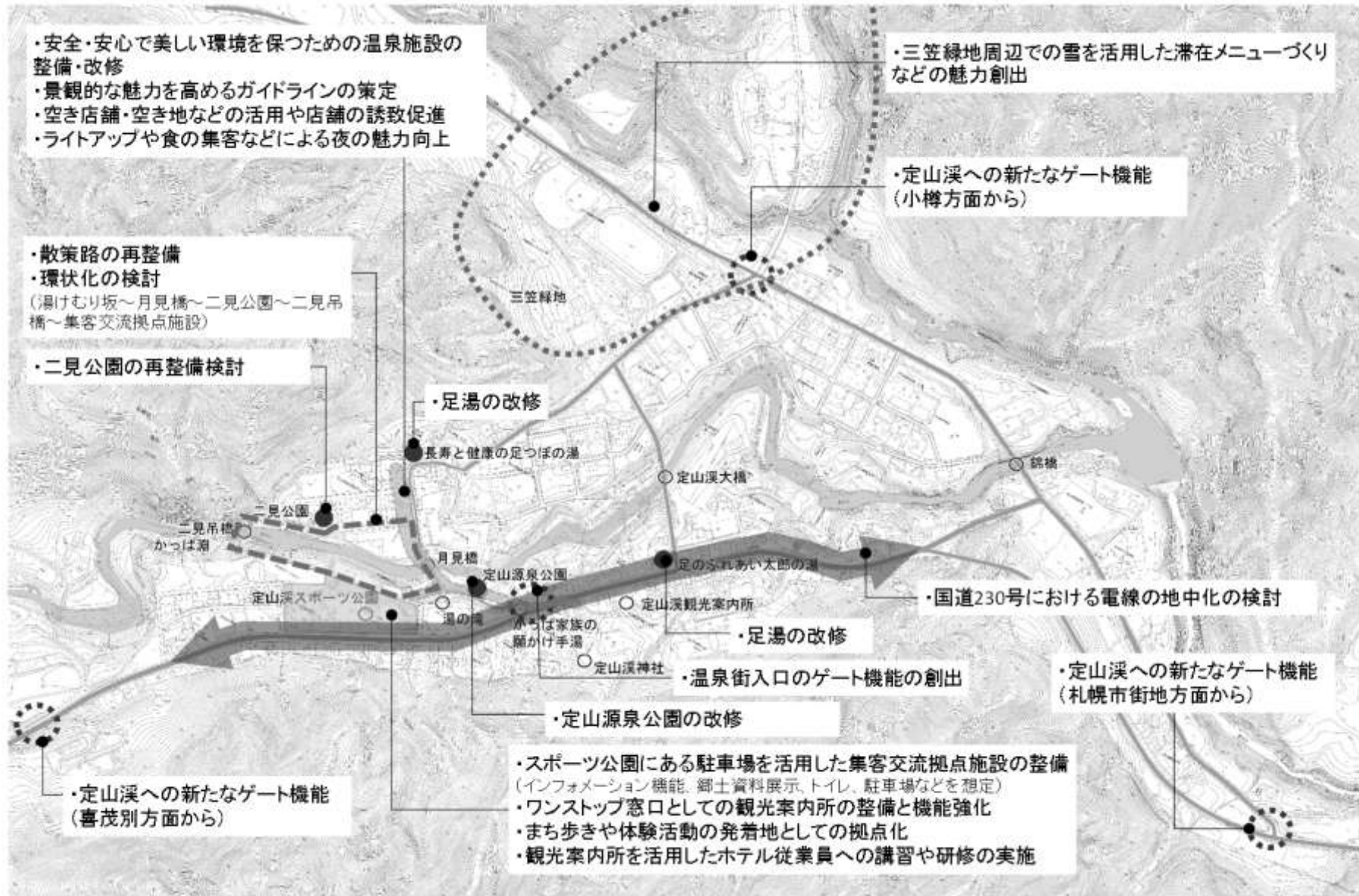
一般社団法人定山溪観光協会を中心とした観光振興の充実を図るとともに、空き店舗の有効活用やイベントによるまちおこしなど、まちづくりの視点からは、将来的な移住や二地域居住を見据えつつ、定山溪のエリアとして持続性のあるマネジメントも必要となります。

そのため、地域住民や事業者などによるエリアマネジメント機能をもった組織の在り方を検討します。

【主な取組】

- ・一般社団法人定山溪観光協会の体制及び機能の強化
- ・エリアマネジメント組織の在り方検討

基本方針の展開図（案） 定山溪温泉



基本方針の展開図（案） 定山溪エリア



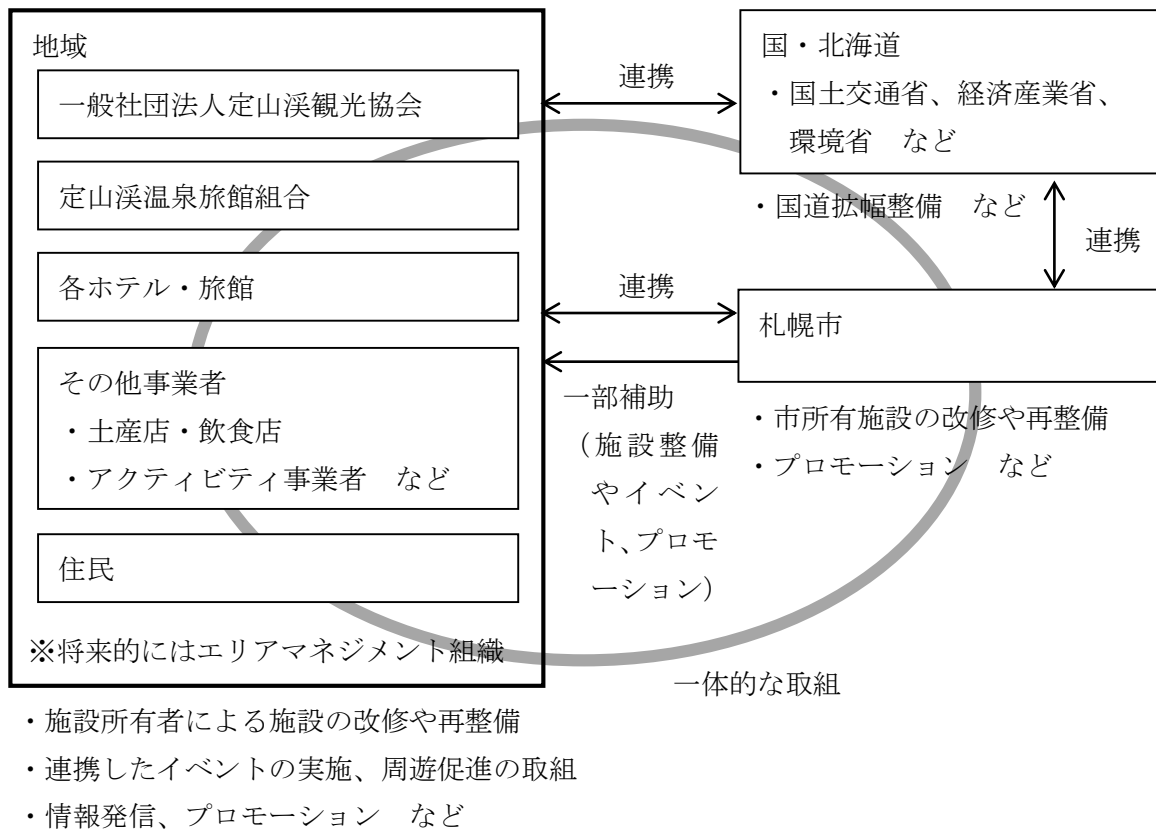
第6章 観光魅力アップの推進に向けて

1 推進体制

定山溪観光魅力アップの推進にあたっては、札幌市と地域が役割分担をしながら、連携して進めていきます（「資料編 定山溪観光魅力アップ構想の実施主体及び展開スケジュール」参照）。

地域においては、一般社団法人定山溪観光協会、ホテル・旅館、その他の事業者、住民が一体となって取組を推進するとともに、定山溪エリアをマネジメントする体制づくりを行います。

【推進体制イメージ】



2 段階的な魅力アップの推進

魅力アップに向けて取り組むにあたり、既存施設の改修や周辺観光資源との連携強化など、すぐに着手できることは速やかに実施し、国道230号の拡幅に関連する事業など、時間のかかる取組については、タイミングよく効果的に実施できるよう、先を見据えて段階的に進めます。

特に、基本方針1については、先行的にできる取組を行いつつ、集客交流拠点施設を核とする各種施設整備に向けた基本計画などを策定し、具体的な取組に反映します。

新たな取組については、実証実験を積極的に行い検証するなど、さまざまな手法を用いながら、本格的な取組につなげていきます。

3 進行管理

上位計画である札幌市観光まちづくりプランでは、観光を取り巻く社会経済情勢の変化に的確に対応し、弾力的かつ機動的に施策を展開するため、柔軟な見直しを行う計画としています。

本構想については、成果指標を設定して客観的に検証し、札幌市観光まちづくりプランにおける毎年度の点検・評価に新たな取組などを追加・補強しながら進行管理を行うとともに、必要に応じて基本方針などの見直しを図ります。

【成果指標】

■定山溪地域の延べ宿泊者数

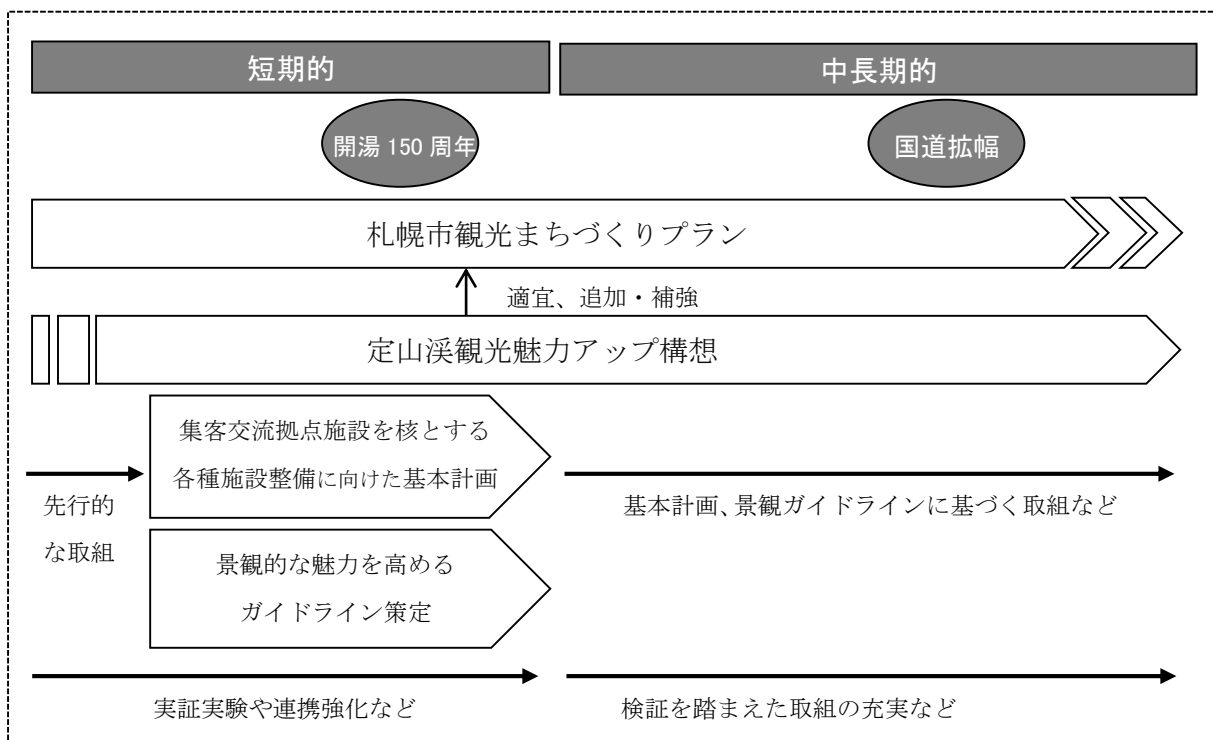
1,197 千人（平成 25 年度） → 1,450 千人（平成 36 年度）

■温泉街の街並みに魅力があると感じる人の割合

42.2%（平成 24 年度） → 60%（平成 36 年度）

■周辺観光スポットが充実していると感じる人の割合

39.3%（平成 24 年度） → 60%（平成 36 年度）



資料編

- ・ 定山溪観光魅力アップ構想の実施主体及び展開スケジュール
- ・ 策定経過

定山溪観光魅力アップ構想の実施主体及び展開スケジュール

基本方針・主な取組	実施主体	短期的な取組	中長期的な取組
基本方針1 温泉街らしさにぎわいづくり			
①温泉施設や観光スポットなどの環境整備			
○温泉を楽しめる施設などの改修や温泉情緒を感じさせる演出			
・足湯、定山源泉公園などの改修	観)観光企画課、定山溪観光協会	適切な施設維持管理・修繕、基本計画における検討	基本計画、景観ガイドラインに基づく再整備
・安全・安心で美しい環境を保つための温泉施設の整備・改修	観)観光企画課、ホテル・旅館、その他事業者	適切な施設維持管理・修繕、基本計画における検討	基本計画、景観ガイドラインに基づく再整備
・温泉情緒を感じさせるような湯けむりなどの演出	観)観光企画課、定山溪観光協会	基本計画策定における検討	基本計画、景観ガイドラインに基づく再整備
○定山溪の顔となる新たな拠点の創出			
・スポーツ公園にある駐車場を活用した集客交流拠点施設の整備	観)観光企画課、定山溪観光協会	施設機能の検討	設計 施設整備
○散策路の再整備			
・散策路の再整備	観)観光企画課	適切な施設維持管理・修繕、基本計画における検討	基本計画、景観ガイドラインに基づく再整備
○集客交流施設を核とする各種施設整備に向けた基本計画策定			
・集客交流拠点施設を核とする各種施設整備に向けた基本計画策定	観)観光企画課、定山溪観光協会	基本計画の検討・策定	
○サインの整備・改修			
・サインの改修・修繕(老朽化、多言語対応など)	観)観光企画課、ホテル・旅館、その他事業者	適切な施設維持管理・修繕、基本計画における検討	基本計画、景観ガイドラインに基づく再整備
・歴史や自然などの案内サインや散策路の誘導サインの整備	定山溪観光協会	適切な施設維持管理・修繕、基本計画における検討	基本計画、景観ガイドラインに基づく再整備
・温泉街入口のゲート機能の創出	観)観光企画課、定山溪観光協会	適切な施設維持管理・修繕、基本計画における検討	基本計画、景観ガイドラインに基づく再整備
②美しい都市型温泉地としての景観形成			
○良好な街並みやにぎわいを感じる活動などにより景観的な魅力を高めるガイドラインの策定			
・良好な街並みやにぎわいを感じる活動などにより景観的な魅力を高めるガイドラインの策定	市)地域計画課、観)観光企画課、定山溪観光協会、地域住民	景観ガイドラインの検討	効果的な運用
○景観形成のための取組			
・国道230号における電線の地中化の検討	北海道開発局	検討	(国道幅に合わせた整備)
・温泉街における「和」の雰囲気づくり	定山溪観光協会、ホテル・旅館	実証実験	基本計画、景観ガイドラインに基づく再整備
・沿道への植栽	定山溪観光協会、ホテル・旅館、地域住民	取組の展開	
・温泉街の清掃・草刈・除雪による街並みの整備	定山溪観光協会、ホテル・旅館、地域住民	取組の充実、課題の検討	課題解決に向けたさらなる方策実施
③温泉街におけるにぎわいの創出			
○各ホテルを気軽に立ち寄ってもらうための仕掛け			
・各ホテルの一角を活用したマルシェの開催	定山溪観光協会、ホテル・旅館	実証実験	検証を踏まえた取組の充実
・ホテルの土産店やトイレを誰でも気軽に利用できる工夫・発信	定山溪観光協会、ホテル・旅館	実証実験	検証を踏まえた取組の充実
○温泉街を歩いてもらうための仕掛け			
・空き店舗・空き地などの活用や店舗の誘致促進	観)観光企画課、定山溪観光協会	実証実験、制度の検討	検証を踏まえた取組の充実
・周遊を促すための定山溪がらみ手形のさらなる活用や充実	定山溪観光協会	取組の充実	
・まち歩きガイドツアーなどのメニュー強化	定山溪観光協会	取組の充実	
・ライトアップや食の集客などによる夜の魅力向上	観)観光企画課、定山溪観光協会	実証実験	検証を踏まえた取組の充実

基本方針2 広域的なネットワーク化による新たな魅力創出			
①新しい魅力エリアの形成			
・バン屋やカフェなどの食の魅力スポットの観光資源としての活用	定山溪観光協会、その他事業者	活用の促進	
・三笠緑地周辺の雪を活用した滞在メニュー作りなどの魅力創出	観)観光企画課、定山溪観光協会、その他事業者	観光資源の発掘やイベントの創出	既存の観光資源と周辺地域を含めたまちづくり
②温泉街をハブ(拠点)とした周辺観光資源との回遊性向上			
・周辺観光資源と連携したターゲットに応じた体験観光プランづくり	定山溪観光協会、ホテル・旅館	ネットワークの構築及び体験観光プランづくり	プランの拡充及び内容の充実
・アクティビティなどの周辺観光資源の情報集約と情報発信	定山溪観光協会	周辺観光資源との連携強化、情報発信の充実	
・周辺観光資源を巡る周遊バスやレンタサイクルの検討	観)観光企画課、定山溪観光協会、その他事業者	実証実験	検証を踏まえた取組の充実
・「札幌シーニックハイウェイ藻岩山麓・定山溪ルート」の取組と連携した南区全体の観光魅力アップ	南)地域振興課、観)観光企画課、定山溪観光協会	取組の充実	

定山溪観光魅力アップ構想の実施主体及び展開スケジュール

基本方針・主な取組	実施主体	短期的な取組	中長期的な取組
③定山溪エリアまでの交通アクセスの魅力向上			
・直行バス「かつぱライナー」の充実	定山溪観光協会、その他事業者	利用実態を踏まえた充実	
・ガイドや歴史・食などの仕掛けによる定山溪までの移動の魅力向上	観)観光企画課、定山溪観光協会	実証実験	検証を踏まえた取組の充実
・真駒内駅前地区のまちづくりに合わせた交通アクセスの魅力向上の検討	市)地域計画課、観)観光企画課	課題整理	魅力向上に向けた検討
④年間を通した集客イベント事業の推進			
・既存の春夏秋冬の各イベントの充実	観)観光企画課、定山溪観光協会	内容などの充実	
・開湯150周年イベントやプレイベントの実施及び記念誌制作	観)観光企画課、定山溪観光協会	イベント実施及び記念誌制作	イベント実施後の連携促進
・市内大型イベントとのコラボレーション	観)観光企画課、定山溪観光協会	取組の充実	

基本方針3 魅力を伝える情報発信・インフォメーションの強化			
①第1プロセス(知名度アップ、イメージ構築)			
・首都圏や関西圏を主なターゲットとした商談会や物産会でのPR	観)観光企画課、定山溪観光協会	取組の充実	時代の変化に対応した取組
・東南アジアなど海外の有望市場への「和」のイメージを使ったプロモーション	観)観光企画課、定山溪観光協会	取組の充実	時代の変化に対応した取組
・定山溪温泉PR隊長「かつぼん」の活用	定山溪観光協会	活用の充実	
・ツール多言語化(パンフレット等)	定山溪観光協会	取組の充実	
②第2プロセス(動機づけ、決定)			
・世代や目的などのターゲットに応じた媒体等を活用した情報発信	観)観光企画課、定山溪観光協会	取組の充実	時代の変化に対応した取組
・ターゲットや利用目的別の過ごし方の提案	観)観光企画課、定山溪観光協会	取組の充実	時代の変化に対応した取組
③第3プロセス(到着後のサポート)			
・ワンストップ窓口としての観光案内所の整備と機能強化	観)観光企画課、定山溪観光協会	課題の洗い出し	集客交流拠点施設整備に合わせた機能強化
・まち歩きや体験活動の発着地としての拠点化	定山溪観光協会、その他事業者	課題の洗い出し	集客交流拠点施設整備に合わせた機能強化

基本方針4 魅力アップの担い手育成とマネジメント			
①おもてなしを支える人材育成			
・観光案内所を活用したホテル従業員への講習や研修の実施	定山溪観光協会	取組の充実	
・観光関係者が一体となった温泉街の環境美化活動の推進	定山溪観光協会、ホテル・旅館、地域住民	取組の充実	
・地域住民やホテル従業員による観光ボランティアの育成	定山溪観光協会、ホテル・旅館、地域住民	実証実験	検証を踏まえた取組の充実
②定山溪ファンやサポーターづくり			
・市内高校生や大学生などによるイベント協力の体制づくり	定山溪観光協会	取組の充実	
・市内の児童生徒、教員を対象にした体験学習の推進	観)観光企画課、定山溪観光協会	取組の充実	
・SNSなどを活用した定山溪ファンづくり	定山溪観光協会、その他事業者	活用の充実	
③エリアマネジメント機能の創出			
・定山溪観光協会の体制及び機能強化	観)観光企画課、定山溪観光協会	在り方検討	機能強化
・エリアマネジメント組織の在り方検討	観)観光企画課、定山溪観光協会、地域住民	在り方検討	エリアマネジメント機能の創出

策定経過

■策定経過

日 時	開 催 名
平成 25 年 2 月	定山溪の魅力に関するアンケート調査
平成 25 年 3 月 13 日 (水)	定山溪観光協会行事宣伝委員会 意見交換
平成 26 年 1 月 14 日 (火)	第 1 回 定山溪観光魅力アップ構想検討会議
平成 26 年 3 月 6 日 (木)	第 2 回 定山溪観光魅力アップ構想検討会議
平成 26 年 5 月 9 日 (金) 5 月 12 日 (金)	第 3 回 定山溪観光魅力アップ構想検討会議 ※検討委員の都合により、2 日間に分けて開催
平成 26 年 5 月 21 日 (水) 5 月 31 日 (土)	定山溪温泉 PR フェア in チカホ 「知って、行って、楽しむ定山溪」
平成 26 年 5 月 24 日 (土) 5 月 31 日 (土)	定山溪温泉の魅力アップに向けた 「留学生ワークショップ」
平成 26 年 6 月 19 日 (木)	第 4 回 定山溪観光魅力アップ構想検討会議
平成 26 年 8 月 5 日 (火)	第 5 回 定山溪観光魅力アップ構想検討会議
平成 26 年 9 月 16 日 (火)	第 6 回 定山溪観光魅力アップ構想検討会議

■定山溪観光魅力アップ構想検討会議の概要

○会議内容

【第 1 回】

- 日 時：平成 26 年 1 月 14 日 (火) 13:00～
場 所：定山溪まちづくりセンター集会室
議 事：定山溪の将来的なイメージについて
ポジショニングとターゲットについて
情報発信、プロモーションについて

【第2回】

日 時：平成26年3月6日（木）13:00～

場 所：定山溪まちづくりセンター集会室

議 事：定山溪の観光振興に向けた具体的なイメージについて

【第3回】

日 時：平成26年5月9日（金）13:00～【第一部】

平成26年5月12日（金）14:00～【第二部】

※検討委員の都合により、2日間に分けて開催

場 所：定山溪まちづくりセンター集会室（集合）

花もみじ館（意見交換）

議 事：まち歩きを通じた定山溪の課題と観光資源について

定山溪の観光振興の具体的なアイデアについて

【第4回】

日 時：平成26年6月19日（木）13:00～

場 所：定山溪まちづくりセンター集会室

議 事：定山溪観光魅力アップ構想（案）について

【第5回】

日 時：平成26年8月5日（火）13:00～

場 所：定山溪まちづくりセンター集会室

議 事：定山溪観光魅力アップ構想（案）について

【第6回】

日 時：平成26年9月16日（火）13:00～

場 所：ぬくもりの宿ふる川

議 事：定山溪観光魅力アップ構想（案）について



○検討委員（五十音順、敬称略）

氏 名	所 属 等
金川 浩幸	一般社団法人定山溪観光協会理事、定山溪温泉旅館組合副組合長（ホテル鹿の湯グループ常務取締役）
佐藤 郁夫	札幌大学大学院経営学研究科長・教授
布村 英俊	一般社団法人定山溪観光協会理事、定山溪温泉旅館組合副組合長（株式会社第一寶亭留常務取締役）
橋場 了吾	公募委員
長谷川 鏡子	公募委員
濱上 敏治	一般社団法人定山溪観光協会理事 （株式会社札幌リゾート開発公社代表取締役社長）
濱野 将豊	一般社団法人定山溪観光協会副会長、定山溪温泉旅館組合組合長（株式会社ハマノホテルズ専務取締役）
古川 雅朗	一般社団法人定山溪観光協会理事 （株式会社定山溪物産館代表取締役社長）
古川 善浩	定山溪温泉旅館組合副組合長 （株式会社定山溪パークホテル常務取締役）
松田 忠徳	札幌国際大学観光学部教授
山田 秀明	一般社団法人定山溪観光協会常務理事

○オブザーバー（敬称略）

氏 名	所 属 等	出席回次
中西 博	定山溪連合町内会会長	第2回
陰元 潤一	定山溪連合町内会副会長	第5回、第6回
松井 紀男	定山溪連合町内会総務部長	第1回

■定山溪温泉 PR フェア in チカホ「知って、行って、楽しむ定山溪」

日 時：平成 26 年 5 月 21 日（水）14：00～19：00

平成 26 年 5 月 31 日（土）10：00～18：00

場 所：札幌駅前通地下広場

来場者：1,129 名

内 容：定山溪の魅力に関するパネル等の展示
アンケート調査の実施
シンポジウムの開催

- ・松田忠徳氏（札幌国際大学教授）
「温泉博士が語る定山溪の魅力」
- ・松橋京子氏（定山溪鶴雅リゾートスパ森の譚）
「Iran kara pte=イランカラプティからはじまるおもてなし」
- ・重松彌佐氏（日本児童文学者協会会員<作家>）
「むかしむかし定山溪鉄道が走っていたころのおはなし in チカホ」
- ・亀和田俊一氏（八剣山ワイナリー社長）
「八剣山ワイナリーと地域の魅力」
- ・次ページの「留学生ワークショップ」のプレゼンテーション



■定山溪温泉の魅力アップに向けた「留学生ワークショップ」

日 時：平成 26 年 5 月 24 日（土） 9：30～18：00

平成 26 年 5 月 31 日（土） 14：30～17：00

場 所：まち歩き 定山溪各所

意見交換 ぬくもりの宿ふる川

温泉交流会 定山溪第一寶亭留 翠山亭

プレゼンテーション 札幌駅前通地下広場

参加者：市内及び近郊の 6 大学の中国・韓国・台湾の留学生 14 名（日本人大学生 1 名を含む）

内 容：定山溪のまち歩きを通して、留学生が見る定山溪の課題や活性化に向けたアイデアなどに関するワークショップ

定山溪温泉 PR フェア in チカホにおけるプレゼンテーション

